刑事訴訟審判手續

淺井魁編輯

明治十五年三月印行

例言

凡法律タル其文章極メテ簡單ニ意義頗ル廣博ナリ而シテ我カ新法ニ於ケル刑事裁判ノ公平ヲ保維スルニ欠ク可カラサルノ要件ヲ定メテ漏スナク無シ抑犯罪ヲ搜査スルニ起リ裁判言渡ヲ執行スルニ至ルマテ順次履行スヘキ刑事訴訟ノ手續キハ都テ該法ノ規定スル處ナリト雖ヒ其細則ニ至テハ各法廳ニ於テ各又舊慣ノアルアリ新法實施ノ今日ト雖ヒ各自統一ナラサル可キハ論ヲ俟タサルナリ故ニ甲衙ノ人民乙衙ニ於テ訴訟ヲ提起スルニ當テハ或ハ困難ナキヲ保シ難シ又衙門ニ於ケル書記ハ必ナキ能ハサル可シ予曾テ之ヲ憂フルカ爲メ公務ノ餘暇治ニ基キ公布布達ノ新法ニ涉カモノ及ヒ從來ノ慣例ヲ參酌シ交ニ効ヲ奏セリ之ヲ名ケテ刑事訴訟密判手續ト云フ然ルニ出版ノ際ニ迫ヒ匆卒稿ヲ脫セシヲ以テ或ハ脫漏無キヲ保シ難

東京帝國大學圖書館藏

二ヲ冀クハ講法大家ノ斧正ヲ待ト爾云

編者識

刑事訴訟審判手續目錄

第一章　告訴告發起訴及ヒ令狀　自第一條至第三十條
第二章　密室監禁　自第三十一條至第三十三條
第三章　証據　自第三十四條至第三十六條
第四章　被告人ノ訊問及ヒ對質　自第三十七條至第四十一條
第五章　檢証及ヒ物件差押　自第四十二條至第五十二條
第六章　証人訊問　自第五十三條至第七十一條
第七章　鑑定　自第七十二條至第七十九條
第八章　現行犯ノ豫審　自第八十條至第八十七條
第九章　保釋　自第八十八條至第九十六條
第十章　豫審終結　自第九十七條至第百十條
第十一章　豫審上訴　自第百十一條至第百三十一條

第十二章　輕罪公判　自第百三十二條至第二百八條
第十三章　違警罪控訴ノ公判　自第二百九條至第二百十八條
第十四章　重罪公判其陪席及ヒ書記ノ手續　自第二百十九條至第二百四十六條
第十五章　再審ノ訴　自第二百四十七條至第二百五十一條
第十六章　公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴　自第二百五十二條至第二百五十七條
第十七章　裁判執行　自第二百五十八條至第二百六十六條
第十八章　復權及ヒ特赦　自第二百六十七條至第二百七十四條

刑事訴訟　審判手續

第一章　告訴告發起訴及ヒ令狀

第一條　重罪輕罪違警罪ニ因リ損害ヲ受ケタルモノ告訴ヲ爲サントスルトキハ其證憑及ヒ事實參考トナル可キヿヲ記載シ署名捺印シタル告訴狀ヲ以テ左ノ所ヘ告訴スルヿヲ得（治罪法第九十三條）

一重罪輕罪ハ其犯罪ノ地若シクハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官

二違警罪ハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官又ハ司法警察官

何人ニ限ラス重罪輕罪アルヿヲ認知シタルカ又ハ之レリト思料シタル件ハ前條ノ手續ヲ以テ告發スルヿヲ得（治罪法第九十五條）

東京帝國大學圖書館藏書印

二 第三條　告訴告發ハ代人ニ委任シテ之レヲ爲スヿヲ得又無能力者ノ告訴ハ法律ニ定メタル代人之レヲ爲スモ其効アリトス（治罪法第九十八條）

第四條　告訴告發ハ其願下ヲ爲シ又ハ其申立タル事ヲ變更スルヲ得但シ被告人之レニ付キ損害ヲ受ケタルトキハ其要償ノ訴ヲ爲スヿアル可シ（治罪法第九十九條）

第五條　被害者公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲サントスル片ハ告訴ト共ニ之レヲ申立又ハ告訴ヲ爲シタル後其旨ヲ豫審判事ニ申立ツルヿヲ得（治罪法第百十條）

第六條　被害者ハ公訴ノ本案ニ付キ始審終審ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ私訴ヲ爲シ若クハ其要ムル所ヲ變更スルヿヲ得（治罪法第百十一條）

又私訴ノ願下ヲ爲シタル後更ニ其申立ヲ爲シ若クハ其要ムル所ヲ變更スルヿヲ得

第七條　被害者ハ代人ニ委任シテ前條ノ私訴ヲ爲シ又ハ其願下若クハ棄權スルヿヲ得

被害者無能力ナル片ハ法律ニ定メタル代人之レヲ爲スモノトス（治罪法第百十二條）

第八條　第一條第二條第三條ノ告訴告發狀及ヒ付屬ノ書類物件等ハ其裁判所ノ書記之レヲ受取リ順次番号ヲ告訴告發狀ニ付シ左ノ如ク一件簿ヲ作リ班數表ニ照シテ之レヲ豫審判事ニ分賦ス若シ差支アル片ハ判事補ニ分賦ス

豫審判事之レヲ受取リタル后其訴件ヲ分明ナラシムル爲メ書記ト立會ニテ告訴告發人ヲ訊問スルヿアリ（治罪法第百四十七條）

一件袋

第何号
被告人
住所
何々事件　氏名
判事氏
書記氏

第九條　口述ノ告訴告發ヲ受ケタル件ハ書記ノ立會ヲ以テ左ノ調書ヲ作リ告訴告發人ニ讀聞カセ豫審判事書記並ニ告訴告發人ト共ニ署名押印ス

私所ノ口述モ又之ノレニ周シ（治罪法第三十七條第九十五條已下第百十條）

口訴調書ノ式

何某ヨリ何某ニ對スル告訴告發調書

何府何縣何國何郡何區何町何村番地職業何ノ某ハ明治何年月日某裁判所ニ出席シ當裁判所豫審判事ニ左ノ事件ヲ告訴告發セリ

一何府何縣何國何郡何區何町何村番地士族平民職業何某ナル者明治年月日午前何時何番地ニ於テ自分何府何縣何國何郡何區何町何村番地職業身分何某ニ對シ何々ノ所業ヲ爲シ何々ノ罪ヲ犯シタルニ付キ此段告訴告發ス

一何某カ前文ノ罪ヲ犯シタル証憑ハ何々又事實參考トナル可キ物件ハ何々ナリ

右告訴告發人ニ讀聞カセタル所其口述ニ毫モ相違之レナキ旨申立ツ依テ本官等左ニ告訴告發人ト署名捺印スルモノ也

明治年月日何々裁判所ニ於テ

豫審判事　氏名　印

第十條　告訴人民事原告人ト爲ルノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ其裁判所管轄ノ地ニ住居セサルトキハ假住所ヲ其地ニ定メ書記局ニ屆ケ置ク可シ若シ屆ケ出テサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ノ申立ヲ爲スヿヲ得ス（治罪法第廿一條）

第十一條　告訴告發ヲ受ケタルトキハ書記左ノ如ク証書ヲ作リ告訴告發人ニ下付ス（治罪法第九十五條同第九十七條）

書記　氏名印
告訴告發人　氏名（印）

証書

何住所職業身分何某ヨリ何住所職業身分何ノ某ニ對スル何々ノ一件告訴告發ヲ受ケタル證トシテ之レヲ付與スルモノ也

明治年月日何裁判所ニ於テ

豫審判事　氏名印
書記　氏名印

第十二條　豫審判事被告人ヲ訊問ス可ト思料シタルトキハ（治罪法第九十三條同第百十四條）被告人ノ氏名等ヲ左ニ示ス帳簿ニ登記シ認印ノ上書記ニ付ス書記亦之レニ認印シ日限ヲ期シ（被告人住所ノ里程ヲ量リ）タル召喚狀ヲ作リ使丁ヲシテ送達ノ手順ヲ爲サシム但シ送達ト被告人出廷トノ間一日ノ猶豫ヲ與フ（治罪法第二十三條同第百三十一條）

召喚人名簿ノ式

表紙

年号月日

召喚人名簿

判事氏　　書記氏

記載例

判事印　書記印

明治何年月日時ノ召喚　職業身分　何縣何國區郡何町村番地　氏名

右年号月日時發　使丁印

召喚狀ノ式（凡令狀ハ二十五年丁第廿八号司法省達通ヲ要ス）

用紙美濃ノ類

召喚狀

住所身分職業

氏名

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之何月日時當裁判所ニ出頭可致者也

明治　年　月

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

何裁判所印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由

送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若クハ戶長ヘ渡シタルトキハ其事由

右之通取扱候也

明治　年　月　日

使丁　氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

喚狀

住所身分職業

氏名

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之何月日時當裁判所ニ出頭可致者也

明治　年　月　日

何裁判所之印

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由	
送達シタル月日時	
送達シタル場所	
親屬雇人若クハ戶長ヘ渡シタルトキハ其事由	

右之通取扱候也

明治　年　月　日

使丁　氏名印

第十三條　召喚狀ヲ受ケタル被告人出廷スルトキハ左ノ手續ヲ爲シ出頭ノ旨ヲ届出ツ可シ

書記ハ其届書ニ捺印シテ之レヲ豫審判事ニ告ク豫審判事ハ即時ニ訊問ノ手續ヲ爲ス又遲クトモ出廷ノ日ヲ過クルヿヲ得ス（治罪法第百十八條）

着到届書ノ式

用紙　半紙　四切

掛官　氏

何府縣何國何區何郡何町何村番地

身分職業

氏名

何年何月日午前後何時出頭

右着到書式ハ訴訟關係人證人鑑定人等皆之レニ同シ但監獄ニ在ル被告人ハ此ノ例ニアラス

其引續キ訊問ヲ爲ス可キトキハ其事件ヲ檢事ニ送致スルヿ左ノ如シ

又引續キ訊問ヲ爲ス可カラサルモノハ其旨ヲ被告人ニ通知ス（治罪法第百十四條）

送致書ノ式

住所身分職業何某ヨリ何住所身分職業何某カ何々ノ罪ヲ犯シタル旨告訴ニ及ヒタルニ依リ被告人何某召喚ノ上訊問候處引續キ取調フ可キ者ト思料セシ條右ノ事件及送致候也

明治何年何月日

某裁判所　豫審判事　氏名　印

何々裁判所
檢事氏名殿

第十四條　告訴告發ノ事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事直チニ被告人ニ對シ勾引狀ヲ發シ又ハ訊問シタル後勾留狀ヲ發スルヿ左ニ其式ヲ示ス

本條ノ場合ニハ豫審判事ヨリ其旨ヲ檢事ニ通知ス若シ通知シタルヨリ一日內ニ檢事ノ起訴アラサルトキハ速ニ被告人ヲ放免シ其旨ヲ告訴告發人ニ通知ス但被告人ヲ放免スルト雖モ後日起訴ノ妨ケト

爲ルヿナカル可シ（治罪法第百十五條）

勾引狀ノ式（治罪法第百廿條同第百廿一條已下ヲ參照ス可）

司法省丁第廿八号達　年　十二月十二日

（檢事官印）

勾引狀

住所身分職業
氏名
若シ氏名分明ナラサルトキハ容貌体格等

右云々ノ事件ニ付訊問ノ節有之當裁判所ヘ勾引ス可キ者也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治　年　月　何裁判所日時所之印

何裁判所
豫審判事　氏名印
書記　氏名印

勾引シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由

執行シタル月日時

執行シタル場所

執行ノ手續

被告人ニ左本ヲ示シ歸邸ヲ許ス

家宅搜索ヲ爲シタルトキハ其由

勾引スルヿ能ハサルトキハ其事由

右之通取扱候也

明治　年　月　日

巡査又ハ憲兵　氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

（検事官印）

勾引狀

住所身分職業
氏名
若シ氏名分明ナラサルトキハ容貌体格等

右云々ノ事件ニ付訊問ノ節有之當裁判所ヘ勾引ス可キ者也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ捜索ス可シ

明治　年　月

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

何裁判所日時之印

勾引シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由	
執行シタル月日時	
執行シタル場所	
執行ノ手續	被告人ニ逼示シ家宅捜索ヲ爲シタルトキハ其由
勾引スルヿ能ハサルトキハ其事由	

右之通、取扱候也

明治　年　月　日

巡査又ハ憲兵　氏名印

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

召判ノ勾引狀モ亦タ本文ノ式ニ準ス

但シ（豫審判事氏名）ヲアルヲ（判事氏名）ニ作ルナリ

逆警罪事件ニ付其證人トシテ呼出スモ應セサルトキノ拘引狀モ亦タ之レニ準ス

但シ本文（右云々ノ事件ニ付）ノ下文ヲ（證人トシテ再度呼出スモ出頭セサルニ付）ト作ルナリ己下同シ（治罪法第百七十三條同第二百九十二條）

勾留狀ノ式（治罪法第百十六條同第百廿三條己下ヲ參照ス可シ）

司法省丁第廿八号達　十四年十二月十二日

勾留狀

住所身分職業

氏名

（若シ氏名分明ナラサル時ハ容貌体格等）

右云々ノ事件ニ付治罪法第百二十六條ノ規則ニ從ヒ何所監倉ヘ勾留ス可キモノ也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治　年　月　日　時

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

勾留シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

執行シタル月日時

執行シタル場所

執行ノ手續

（被告人ニ正本ヲ示シ謄本ヲ一通付ス）

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其由

勾留スル能ハサル時ハ其事由

是ヲ中間シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

勾留狀

住所身分職業

氏名

（若シ氏名分明ナラサル時ハ容貌体格等）

右云々ノ事件ニ付治罪法第百二十六條ノ規則ニ從ヒ何所監倉ヘ勾留ス可キモノ也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治　年　月　日　時

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

勾留シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

執行シタル月日時

執行シタル場所

執行ノ手續

（被告人ニ正本ヲ示シ謄本ヲ一通付ス）

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其由

勾留スル能ハサル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治　年　月　日時

豫審判事　氏名印

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

第十五條　被告人所在ノ地ノ豫審判事直チニ告訴告發ヲ受ケタルカ又ハ檢事ヨリ其送致ヲ受ケタル被告事件急速ヲ要スルトキハ通常ノ規則ニ從ヒ被告人ノ訊問又ハ檢證處分ヲ爲シタル後證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ犯罪ノ地ノ豫審判事ニ送致シ若クハ勾留狀ヲ以テ被告人ヲモ送致ス其手續ハ左ニ（治罪法第百十六條）

送致書式

送致書

何府縣何國何區何郡何町何村何番地士族平民何某ヨリ何府縣何國何區何郡何町何村何番地職業身分何某カ何々ノ罪ヲ犯セシ事ヲ描者ニ告訴（或ハ何々ノ罪ヲ犯セシ事ヲ告訴告發セシ旨ヲ以テ檢事氏名ヨリ送致ヲ受ケ）其事件急速ヲ要スルニ付被告人ノ訊問ヲ爲シタル上別紙目錄ノ通證憑（參考ト爲ル可キ事物）及送致候也

明治何年月日何裁判所ニ於テ

豫審判事　氏名印

某裁判所

豫審判事氏名殿

被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルトキハ何府縣何國云々已下被告人ノ訊問或ハ檢證處分ヲ爲シタル」トアルヨリ下文ヲ「禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料候條別紙目錄ノ證憑事實參考ト爲ル可キ事物相添勾留狀（勾留狀ハ前ニ同シ）ヲ以テ被告人何某及送致候也

明治年月日

何々裁判所　豫審判事　氏名　印

某裁判所
豫審判事御中

別紙目錄ノ式

目錄

一何々ノ書圖面　何通
一何々物品　何點
一何々　何箇

右之通ニ候也

第十六條　召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地外ニ在ルトキハ豫審判事ヨリ左ノ手續キヲ爲シ訊問ス可キ件々ヲ明記シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ其處分ヲ囑託スルヿヲ得（治罪法第百十九條）

囑託書ノ式

囑託書

住所身分職業何某ハ何々ノ罪ヲ犯セシ旨住所身分職業氏名ノ告訴ヲ受ケタルニ依リ召喚ノ上訊問及フ可クノ處同人ハ其御管內住居ノ者ニ付貴官ニ於テ左ノ條件御訊問有之度候

一何々ノ件

一何々ノ件

右及嘱託候條御取調ヲ上其調書御差廻シ有之度候也

明治年　月日

何々裁判所

豫審判事　氏名　印

某裁判所

豫審判事氏名殿

第十七條　民事原告人棄權ノ申立ヲ爲シタルカ又ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願下ノ書面ヲ差出シタル件其事件告訴ヲ待テ受理ス可キ者ナル時ハ件數錄ニ其旨ヲ登記シ一件消滅ノ手順ヲ爲シ其旨ヲ檢事及ヒ被告人ニ通知ス（治罪法第七條及ヒ同第百十二條）

第十八條　第十四條ノ令狀ヲ受ケタル巡査又ハ憲兵勾引ヲ爲シタル被告人ヲ豫審判事ニ引致ス（治罪法第百廿二條）

若シ執行スルヿ能ハサル件ハ治罪法第百三十八條ニ從ヒ其手順ヲ爲シ書記ハ左ノ受取証ヲ渡ス

書記ハ前二項ノ事由ヲ各人名錄ニ左ノ如ク記入ス

受取書ノ式

受取証書

一何某勾引狀（又ハ拘留狀 收監狀）　正本一通若シ執行スルヿ能ハサル件ハ正副本二通ト記ス

一家宅搜索調書　一通

一監倉長ノ受取証書　一通

右巡査又ハ憲兵氏名ヨリ受取候也

明治　年　月　日

何裁判所

書記　氏名　印

各人名錄ノ式

勾引人名錄ノ式

表紙

年号月日

勾引人名錄

氏判事　氏書記

記載例

番号　住所身分職業　氏名

判事印　書記印

右明治年月日時何通ヲ發ス

巡査又ハ憲兵(印)

年月日時勾引ス(又ハ勾引スル能ハス)

勾留人名錄ノ式

表紙

年号月日

勾留人名錄

氏判事　氏書記

記載例

番号　住所身分職業

判事印　書記印　氏名

右年月日時何通ヲ發ス

年月日時勾留ス（又ハ巡査又ハ憲兵（印）ハ能ハス）

年月日取消ス（又ハ保釋ス　責付ス）

收監人名錄ノ式

表紙

年号月日

收監人名錄

氏判事　氏書記

記載例

住所身分職業

判事印　書記印　氏名

右年月日時何通ヲ發ス

巡査又ハ憲兵（印）

年月日收監ス（又ハ收監スル能ハス）

年月日取消ス

已下前ニ圓シ

第十九條　巡査又ハ憲兵令狀執行ノ命ヲ受ケ被告人ノ家宅若ク

ハ他人ノ家宅ニ潛匿シタルト思料シタルトキハ其地ノ戶長又其差支

アル時ハ隣佑二名以上ヲ立會ヲ求メ之レヲ捜索シ被告人ヲ發見又

ハ發見セスト雖ヒ左ノ捜索調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス但

捜索ハ日出前日沒後ヲ禁ス（治罪法第百三十三條）

捜索調書ノ式

捜索調書

何裁判所豫審判事ヨリ住所身分職業氏名ニ對シ發シタル勾引狀（又ハ勾留狀）執行ノ命ヲ受ケ本職ハ何某ノ家ニ就キ其妻某ニ本人ノ在否ヲ尋問シタル處不在ノ旨答フルト雖ヒ何某ハ家内ニ（或ハ隣家氏名ノ宅）潛匿シタリト思料スルニ付戸長氏名ノ立會ヲ以テ室内ヲ捜索シ遂ニ押入内ニ於本人ヲ發見シタルニ付式ニ依リ本條ノ謄本ヲ下付シ茲ニ調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印シタリ

明治年月日何所ニ於テ

巡査又ハ憲兵　氏名　印

戸長　氏名　印

若シ戸長差支アル片ハ本文調書中ニ（戸長立會ノ上捜索ス可キノ處戸長ハ差支アルニ依リ隣人甲何某乙何某ノ立會ヲ求メ）云々ト作ルナリ

但甲乙立會人署名ノ肩書ニ其住所身分ヲ記ス

第二十條　被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタルヿヲ知リタルカ又ハ潛匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スル片ハ巡査ニ令狀ヲ帶行セシムルヿアリ。

又他管ノ巡査其帶行スル所ノ令狀ヲ示シ執行ヲ求ムル片豫審判事ハ其管轄ノ巡査ヲシテ令狀帶行ノ巡査ト同行シテ執行ヲ求ム（治罪法第百三十四條）

第廿一條　豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルヿ能ハサル片

人左ノ人相書ヲ以テ各控訴裁判所檢事長ニ被告人ノ搜査及ヒ逮捕ノ請求ヲ爲ス（治罪法第百三十五條）

人相書ヲ以テ檢事ヘ

照會スル書式

照會書

住所身分職業氏名儀何年何月何日某所身分職業氏名方ヘ忍ヒ入金品窃取シタル旨檢事ヨリ起訴相成候處右被告人其儘逃走シ所在更ニ相知レサルニ付搜査及ヒ逮捕ノ儀可然御取計有之度別紙人相書相添此段及御照會候也

明治何年何月何日

何々裁判所

豫審判事　氏名　印

某控訴裁判

檢事長何某殿

人相書ノ式

人相書

住所身分職業氏名

一年齡何年何ヶ月

一丈高キ方

一顏長キ方

一色白キ方

住所身分職業知レサル片ハ之ヲ除ク

一鼻高キ方
一髪黑キ方 散髪又ハ結髪
一眉細キ方
一額廣キ方
一眼大ニシテ何色勝チ
一口大ナル方
一耳大ナル方
一齒細カキ方
一音聲高キ方
一痘痕ナシ
一疵所ナシ
一鬚髯ナシ
一父母妻子
一長所 何々
一逃走ノ際着服何々
一逃走ノ際携帶セシ品何々
右之通ニ候也

第廿二條 勾引狀ヲ發シタル前被告人既ニ豫審判事ノ管轄地外ニ在リテ被告人ヲ其所在ノ地ノ豫審判事ノ取調ヲ求メタルトキハ之レヲ受ケタル豫審判事ハ假ニ被告人ヲ勾留シ速ニ勾引狀ヲ發シタル豫審判事ニ其旨ヲ通知スルハ左ノ手續ヲ以テス 治罪法第百二十三條

但勾留スル手續ハ前ノ勾留狀書式ニ同シ

通知書之式

通知書

住所身分職業氏名儀何々ノ事件取調ノ爲メ勾引狀發セラレタル趣ニ候處同人ハ右令狀御發前已ニ當管下ヘ移住致居候ニ付當廳ニ於テ取調ヲ受度旨願出ルニ付キ假ニ勾留致置候條此段及御通知候也

明治何年何月何日

何々裁判所

豫審判事　氏名　㊞

某裁判所

豫審判事何某殿

又前條ノ場合ニ於テ通知ヲ受ケタル豫審判事ハ被告人ヲ勾留シタル豫審判事ヨリ訊問ノ件々ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルトキハ左ノ手續ヲ爲ス（治罪法第百二十四條）

囑託書之式

囑託書

住所身分職業氏名何々ノ事件取調ノ儀ニ付拘引狀相發候處已ニ其御管下ニ移轉致居貴官ニ於テ御取調ヲ受度段願出候趣ヲ以テ假ニ勾留相成タル由御通知ニ依リ承知致シ候就テハ左ノ條件御訊問相成度候

一何々事件

一何々ノ件

一何々

右及嘱託候條御取調ノ上其調書御送致有之度候也

或ハ右ノ嘱託ヲ爲サスシテ前ニ發シタル拘引狀ヲ以テ被告人ヲ送致スヘキヲ求ムルトキハ左ノ手續ヲ爲ス

住所身分職業氏名儀何々ノ事件取調フヘキ筋有之拘引狀相發候處右ハ既ニ其御管下ニ移轉致居リ貴官ノ取調ヲ受ケ度段出願候趣御通知有之致承知候然ル處右ハ拙者ニ於テ取調度候條該拘引狀ヲ以テ本人御送致有之度此段及御照會候也

明治何年何月何日

何裁判所

某裁判所

豫審判事何某殿

豫審判事　氏名　印

其訊問ノ嘱託ヲ受ケタル豫審判事ヨリ拘引狀ヲ發シタル豫審判事ニ訊問ノ事ヲ通知スル文書ノ式及ヒ言渡書ノ式ハ左ノ如シ（治罪法第百二十四條第二項）

通知書ノ式

通知書

住所身分職業氏名何々事件訊問ノ儀御嘱託ニ依リ別紙調書ノ通リ申立候ニ付此段及御通知候也

明治何年月日

何々裁判所

某裁判所　豫審判事　氏名印

豫審判事何某殿

言渡ノ式

言渡書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付何裁判所豫審判事ヨリ勾引狀ヲ發シタル處其以前被告人氏名ハ既ニ當裁判所ノ管内ニ在ルヲ以テ其取調ヲ願出ルニ依リ假ニ勾留シタル上何裁判所豫審判事ノ囑託ニ依リ訊問ヲ遂ケタル處何々ニ付治罪法第十一條第何項ニ依リ免訴ヲ言渡スモノ也

明治何年何月何日

何々裁判所　豫審判事　氏名印

第廿三條　豫審判事ハ召喚狀又タハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルヿヲ證明シタル片ハ被告人ノ所在ニ就テ之レヲ訊問スルヿヲ得若シ被告人他ノ管轄ニ在ル片ハ其所在ノ地ノ豫審判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スル場合ニ於テハ左ノ手續ヲ爲ス（治罪法第百二十五條）

豫審判事被告人ノ所在ニ就テ訊問スル片ハ必ス書記ノ立會ニテ調書ヲ作ルナリ（治罪法第三十七條）

訊問ノ一ヲ囑託スル書式

囑託書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付召喚ニ及ヒタル處(或ハ拘引ヲ命シ)病氣(或ハ正當ノ事由)ニ付令狀ニ應スル能ハス然ルニ被告人ノ所在其御管内ニ有之候間貴官ニ於テ被告人ノ所在ニ就キ何々ノ事件御訊問ノ上本人調書御指廻シ有之度此段及囑記候也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名 印

某裁判所

豫審判事氏名殿

第廿四條　勾留狀ヲ發スヘキ場合ハ左ニ示ス(治罪法第百二十六條)

一被告人逃亡スルノ恐レアルトキ

二被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルトキ

若シ勾留日數十日ニ過クルトキハ豫審手續ヲ檢事ニ通知シ且意見ヲ聽キタル上ニテ左ノ如ク收監狀ニ換ヘ其人名等ハ收監人名錄ニ記ス

收監狀ノ式(治罪法第百二十七條)

司法省丁第二十八号明治十四年

十二月十二日達

用紙美濃ノ類

輪郭寸法 竪七寸五分 横五寸四分

（検事官印）

収監状

住所身分職業

○[illegible]ニ付[illegible]○未丁年ニ付[illegible]
○[illegible]ニ付[illegible]○再犯ニ付加重

氏名

（若シ氏名分明ナラサルトキハ容貌体格等）

右云々ノ事件ニ付取調ヲ為シタル処本罪刑法第何條ニ該ル可キ者ト思料ス依テ検事ノ意見ヲ聴キ何所監倉ニ収監ス可キ者也
但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ捜索ス可シ

明治　年　月

何裁判所

予審判事　氏名印

書記　氏名印

（何裁判所日時所之印）

収監シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由	執行シタル月日時	執行シタル場所	執行ノ手續	家宅捜索ヲ為シタルトキハ其事由	収監スルヿ能ハサルトキハ其事由
			被告人ニ正本ヲ示シ謄本ヲ下付ス		

右之通取扱候也

明治　年　月　日　時

巡査又ハ憲兵　氏名印

是ヲ中断シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

（検事官印）

収監状

住所身分職業

○[illegible]ニ付[illegible]○未丁年ニ付[illegible]
○[illegible]ニ付[illegible]○再犯ニ付加重

氏名

（若シ氏名分明ナラサルトキハ容貌体格等）

右云々ノ事件ニ付取調ヲ為シタル処本罪刑法第何條ニ該ル可キ者ト思料ス依テ検事ノ意見ヲ聴キ何所監倉ニ収監ス可キ者
但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ捜索ス可シ

明治　年　月

何裁判所

予審判事　氏名印

書記　氏名印

（何裁判所日時所之印）

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

収監シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由	執行シタル月日時	執行シタル場所	執行ノ手續	家宅捜索ヲ為シタルトキハ其事由	収監スルヿ能ハサルトキハ其事由
			被告人ニ正本ヲ示シ謄本ヲ下付ス		

右之通取扱候也

明治　年　月　日　時

巡査又ハ憲兵　氏名印

被告人ヲ賣付スル件ハ左ノ受書ヲ其親屬故舊ヨリ出サシム又檢事ノ請求ニ依リテハ更ニ十日間勾留スルヿアリ（治罪法第百二十七條）（同第二百十七條）

受書之式

受書

住所身分職業氏名儀御審問中自分ヘ賣付相成候ニ付テハ本人御呼出ノ節ハ何時ニテモ出庭致サセ可申候依テ此段御受仕候也

何某父（或ハ兄弟等）（或ハ故舊）

住所身分職業

氏　名（印）

年号　月　日

自署

何裁判所

豫審判事何某殿

第廿五條　陸海軍在營ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發スル件ハ其所屬長官ニ令狀ヲ示シ執行又ハ送達ヲ爲ス

長官ハ已ムヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシムヘシ其行軍ノ際ト雖モ亦同シ（治罪法第百卅六條）

令狀ハ巡査又ハ憲兵若クハ使丁ヲシテ帶行セシム（令狀書式ハ明治十四年十二月司法省丁第二十八号達ニ依ル）

第廿六條　勾引狀勾留狀収監狀ハ日本全國ニ於テ之ヲ執行ス但時宜ニ依リ正本數通ヲ作リ巡査又ハ憲兵數人ニ分付スルヿアリ

前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付ス此

場合ニ於テハ治罪法第二十三條第二項及ヒ第四項ノ規則ニ從フ(治罪法第百卅二條)

第廿七條　勾留狀又ハ收監狀ヲ受ク可キ被告人既ニ監倉若シクハ獄舍ニ在ルトキハ書記ヨリ之レヲ本人ニ送達シ其旨ヲ正本及ヒ謄本ニ記載ス(治罪法第百卅九條)

第廿八條　密室監禁ノ場合ヲ除クノ外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ代言人ニ接見スルヿヲ得

又被告人ト外人ト書翰或ハ書籍其他ノ書類ヲ授受センヿヲ願出ルトキハ該書類ヲ願書ニ添ヘ書記局ニ差出サシム

豫審判事ハ書類ニ檢印シ書記ヲ經テ顯人ニ下付ス

若書類ヲ留置キタル場合ニハ本件ノ番號被告人ノ氏名及ヒ授受願人ノ氏名ヲモ本札ニ記シ之ヲ保存シ後ヲ下付ス可キ時ニ至リ被告人又ハ外人ニ下渡シ其受取証書ヲ取ル(治罪法第百四十條)

第廿九條　勾留狀又ハ收監狀ヲ取消ストキハ左ノ言渡ヲ爲ス書記ハ拘留又ハ收監人名錄ニ其旨ヲ登記シ而テ監倉長ヘハ左ノ通知ヲ爲ス(治罪法第百四十一條)

拘留狀收監狀ヲ取消ス言渡書ノ式

言渡書

住所身分職業氏名儀明治何年何月何日ノ令狀ヲ以テ勾留(或ハ收監)シ取調タル處禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非スト思料スルニ付治罪法第百四十一條ニ依リ右勾留(又ハ收監)狀ヲ取消スモノナリ

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

収監狀取消ニハ本文(治罪法第百四十一條ニ依リ)ノ下(茲ニ撿事ノ意見ヲ聽キ)ノ十字ヲ加フ

監倉長ニ通知スル書ノ式(此通知書ハ便宜ニ依リ左ノ通知錄ヲ以テス)

表紙

年号月日

保釋
責付　通知錄
令狀取消

氏判事　氏書記

記載例

住所身分職業

氏名

判事印　書記印

右勾留(収監)中ノ處本日勾留収監狀取消シ保釋差許シ(或ハ責付)候條此段及通知候也

氏監倉長殿　監倉長印

第三十條　監倉ニ在ル被告人刑法及ヒ治罪法ヲ見ンコトヲ願フモノハ其願意ヲ聞屆ケ監倉ニ備置キノ法書ヲ之レニ貸與ス

第二章　密室監禁

第三十一條　豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留狀若クハ收監狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スルノ言渡ヲ爲ス

被告人ヲ密室ニ監禁スルトキハ左ニ示ス密室監禁錄ニ被告人住所氏名等ヲ記シ書記ヲシテ言渡書ヲ作ラシメ之レヲ言渡シタル後監倉長ニ其旨ヲ通知スル等ノ手續ハ順次左ニ示ス（治罪法第百四十三條）

密室監禁錄ノ式

表紙

明治年

密室監禁錄

氏判事　　氏書記

記載例

住所身分職業　　氏名

一年月日言渡　　判事檢印
一年月日訊問

一年月日何々ノ事由ニテ言渡ヲ
更改スルヿヲ裁判所長ヘ報告ス　　所長印　檢印
一年月日言渡ヲ更正ス
一年月日訊問

○此檢印ハ裁判所長ヘ報告ノ證トシテ之ヲ受ク

密室監禁言渡書ノ式

言渡書

住所身分職業氏名儀何々ノ事件ニ付令狀ヲ以テ勾留(或ハ收監)シタル所事實發見ノ爲ノ必要ナルヲ以テ治罪法第百四十三條ノ規則ニ從ヒ密室監禁ヲ命スルモノ也

明治何年何月何日

某裁判所

豫審判事　氏名㊞

書記　氏名㊞

密室監禁ノ言渡ヲ更正スル件其言渡書ノ式 治罪法第百四十五條

言渡書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付明治何年何月何日密室ニ監禁スルノ言渡ヲ爲シタル處治罪法第百四十五條ニ依リ更密室監禁ヲ命スルモノ也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名㊞

書記　氏名㊞

監倉長ヘ通知スル書式

通知書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付令狀ヲ以テ勾留(或ハ收監)中ノ所本日密室監禁ノ言渡ニ及ヒ候條此段及通知候也

明治何年何月　日

何裁判所

豫審判事　氏名　印

書記　氏名　印

何府縣
監倉長何某殿

密室監禁ノ言渡ヲ更改スルトキ監倉長ニ通知スル書式

通知書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付明治何年何月日密室ニ監禁スル旨言渡置キタル處本日更ニ密室監禁言渡候條此段及御通知候也

明治何年　月　日

某裁判所

豫審判事　氏名　印

書記　氏名　印

何府縣
監倉長氏名殿

第三十二條　密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類貨幣其他ノ物品ヲ授受スルヿヲ許サス

食物飲料藥餌其他監倉ヨリ給スヘキ物品ト雖モ監倉長ノ特ニ指名シタルモノヲシテ之レヲ給與セシム（治罪法第百四十四條）

前一項ノ場合ニ於テ被告人密室監禁中外人ト接見シ又ハ書類物件ヲ授受スルヿヲ願出ルトキハ願書二通ヲ差出サシメ書記ヲシテ許否ノ旨ヲ願書ノ紙尾ニ記載セシメ其一通ヲ願人ニ下付ス

被告人他人ト接見スルノ手續ハ第二十八條ノ例ニ準ス

第三十三條　密室監禁ハ十日ヲ超過ス可ラス但十日毎ニ其言渡ヲ更改スルヿヲ得

言渡ヲ更改スルトキハ其事由ヲ裁判所長ニ報告ス

豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問シ通常ノ規則ニ從ヒ調書ヲ作ル（治罪法第百四十五條）

第三章　證據

第三十四條　法律ニ於テハ被告事件ノ模樣ニ因リ有罪ナルノ推測ヲ定ムルヿナシ

被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ス（治罪法第百四十六條）

第三十五條　豫審判事ハ檢察官民事原告人被告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル証據徵憑ヲ集取ス（治罪法第百四十七條）

第三十六條　豫審判事臨檢家宅捜索物件差押又ハ被告人証人ノ訊問ヲ爲スニハ書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作リ豫審判事ト共ニ署名捺印ス若シ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルヿ能ハサルトキハ立會人二名ヲ要ス但監倉ニ就テ被告人ヲ訊問スル時ハ其監倉ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム

書記ノ立會ヲ得ルヿ能ハサルトキハ豫審判事自カラ調書ヲ作リ之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印ス

書記又ハ立會人ナクシテ為シタル處分ハ其効ナキモノトス（治罪法第百四十八條）

第四章　被告人ノ訊問及ヒ對質

第三十七條　豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス但檢證ヲ為シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スル片ハ此限ニ在ラス（治罪法第百四十九條）

被告人ニ對シ令狀ヲ發スル手續等ハ第一章ニ從フ

第三十八條　豫審判事ハ書記ト共ニ審廷ニ臨ミ被告人ヲシテ其罪ヲ白狀セシムル為メ恐嚇又ハ詐言ヲ用フルコトナク先ツ其氏名年齢身分職業住所及ヒ出生ノ地等ヲ問ヒ次テ被告事件ヲ訊問ス書記ハ其訊問及ヒ陳述ヲ錄取シ左ノ調書ヲ作ル（治罪法第百五十條同第百五十一條）

被告人調書ノ式（治罪法第百十四條第百十六條第百十八條第百廿二條第百廿四條ノ第二項第百廿五條）

被告人何某調書（條第百四十九條第百五十一條）

明治何年何月何日豫審判事氏名ハ法廷ニ於テ書記氏名ノ立會ニテ何々事件ノ被告人何某ヲ訊問スル左ノ如シ

問　其方ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ハ如何

答　自分氏名ハ何々年齢ハ何年何月身分ハ華族士族平民職業ハ何業住所ハ何所出生ノ地ハ何所ナリ

問　其方ハ何、、、、、、、、、、、、

答　何々、、、、、、、、、、、、、、

問　何々、、、、、、、、、、、、、、

答　何々、、、、、、、、、、、、、、

問　其方ハ前ニ罪ヲ犯シ裁判ヲ受ケタルコトアリヤ

答　曾テ罪ヲ犯シ裁判ヲ受ケタルヿナシ

問　此何品ハ其方ノ所持ナリヤ(証憑物件ヲ被告人ニ示シテ問フ)

答　是レハ自分ノ所持品ニ相違ナシ

問　然ラハ此品ハ何々シタルモノナリヤ

答　云々

右被告人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ニ毫モ相違之レナキ旨申立ツ依テ左ニ署名捺印セシム

被告人　氏名(印)

被告人其陳述ヲ變更增減ス可キヿヲ申立タルトキハ

右被告人氏名ニ讀聞カセタル所其陳述ヲ變更增減ス可キヿヲ申立タリ

問　何々、、、、、、、、

答　何々、、、、、、、、、

問　何々、、、、、、、、

答　何々、、、、、、、、

右被告人氏名ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨ヲ申立テ左ニ署名捺印ス

被告人　氏名(印)

被告人署名捺印スルヿ能ハサルトキハ

右被告人氏名ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨ヲ甘供ス但何々ニ付署名捺印スルヿ能ハサル旨申立タリ(或ハ何々ニ付署名(捺印)スルヿ能ハサル者申立テ左ニ署名(捺印)ス

被告人　氏名)

右ハ治罪法第百五十一條ノ式ニ依リ本官等左ニ署名捺印スルモノ也

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事　氏名　㊞

書記　氏名　㊞

被告人　㊞

公廷ニ於テ重罪ヲ犯シタル者アル片被告人調書ハ此書式ニ準ス但(豫審判事)ヲ(判事)ニ作リ又右被告人氏名ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨ヲ申立)ノ下文ヨリ(タリ依テ本官等氏名ト共ニ左ロ署名捺印スルモノナリ)ト記ス(判事書記及ヒ被告人共ニ)(尤モ治罪法第百五十一條ノ式ニ從ヒ云々ハ記スルニ及ハス)

第三十九條　前條ノ場合ニ於テ被告人又ハ對質人聾ナル片ハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナル片ハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ文字ヲ知ラサル片ハ左ノ呼出狀ヲ以テ通知ト為ル可キ者ヲ呼出シ通事ヲ命ス其命令書式ハ順次左ニ示ス

被告人又ハ對質人國語ニ通セサル時亦同シ(治罪法第百五十六條)

通事ノ呼出ニ應セサル片罰金ヲ言渡ス手續ハ切引狀ヲ除クノ外第五十七條ニ從フ其旅費給料等ハ第七十一條ニ從ツテ給與ス(治罪法第二百條)

呼出狀ノ式(十四年司法省丁第二十八号達)

用紙美濃ノ類

呼出狀

輪郭寸法 竪七寸五分 横五寸四分

住所身分職業

證人 氏名
證定人

右云々ノ事件ニ付通事トシテ相尋ル儀有之來ル何月何日時何所ニ出頭可致者也

但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルヿアル可シ

明治 年 月

何裁判所 何裁判所之印

豫審判事 氏名印

書記 氏名印

此呼出狀ハ出頭ノ節書記局ニ差出ス可シ

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

使丁 氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

呼出狀

住所身分職業

證人 氏名
證定人

右云々ノ事件ニ付通事トシテ相尋ル儀有之來ル何月何日時何所ニ出頭可致者也

但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルヿアル可シ

明治 年 月

何裁判所 何裁判所之印

豫審判事 氏名印

書記 氏名印

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

此呼出狀ハ出頭ノ節書記局ニ差出ス可シ

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

使丁 氏名印

通事命令書ノ式（或ハ鑑定命令書（治罪法第百五十七條同第百八十條同第百九十三條）ノ式モ亦之ニ準）

通事命令書

住所身分職業氏名何府縣何國何區郡何町村何番地氏名ノ何々事件ニ付何々ノ通事鑑定ヲ命シ候條正實ニ通事（或ハ鑑定）ス可キ者也

明治何年何月何日

某裁判所　豫審判事　氏名印

書記　氏名印

鑑定人氏名ハ治罪法第百九十三條ニ依リ宣誓ヲ爲シタルニ付キ其旨ヲ記載スル者也

明治何年　月　日

何裁判所　書記　氏名印

（公判ニ付テノ通事鑑定人命令書モ亦之レニ準ス但シ豫審判事トアル豫審ノ二字ヲ除クヘシ）

第四十條　通事ニハ左ノ如ク正實ニ通譯スヘキノ宣誓ヲ爲サシメタル上ニテ通譯ヲ爲シ其調書ニ署名捺印セシム（治罪法第百五十七條第百九十三條）

被告人陳述書ノ謄本ヲ求ムル件ハ書記之ヲ認爲シテ下付ス（治罪法第百五十三條）

宣誓書ノ式（十四年司法省丁第二十八号達）

宣誓書

何々ノ事件ニ付愛憎畏懼ノ心ナク總テ正實ニ通譯陳述鑑定スル可キ事ヲ誓フ

明治　年　月　日

通譯人
証人
鑑定人　氏名印

第四十一條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人証人又ハ其他ノ者ト對質セシメ而シテ書記ハ左ノ對質調書ヲ作ル（治罪法第百五十四條同第百五十五條）

被告人ト他ノ被告人証人等ヲ對質スル調書ノ式

甲被告人乙被告人及ヒ証人某對質ノ調書

明治何年何月何日豫審判事氏名ハ公庭ニ於テ書記氏名ノ立會ヲ以テ云々事件ノ甲被告人氏名ト該事件ノ証人氏名及ヒ他ノ被告人氏名ト對質セシムルヿ左ノ如シ

証人某ニ問フ　何所ニ於テ何々ヲ爲シタル者ハ此席ニ在ル被告人何ソナルヤ

答　甲被告人氏名ナリ

問　然ラハ其方何々ヲ爲シタル者ハ此席ニ在ル被告人誰ナルヲ知ルヤ

答　是レモ又甲被告人何某ナリ

問　甲被告人氏名其方何所ニ於何々ヲ爲シタルヤ何某(證人ノ氏名ナリ)ハ其所ニ在ラサリシヤ

答　如何ニモ氏名ハ其所ニアリキ

問　乙被告人氏名ニ對シ其方甲被告人ハ如何シテ知ルモノナルヤ

答　何々、、、、、、、、

問　何々、、、、、、、、

答　云々、、、、、、、、

又問　然ラハ何々ハ如何シテ之ヲ爲シタルヤ

答　乙被告人面色ヲ變シテ曰ク　何々、、、、、、、、

右被告人何某証人氏名他ノ被告人某等ニ讀聞カセタル處各其陳述ノ毫モ相違ナキ旨申立ツ依テ左ニ署名捺印セシム

甲被告人　氏名㊞

乙被告人　氏名㊞

証人　氏名㊞

右ハ治罪法第百五十一條ノ式ヲ履行シ茲ニ本官等左ニ署名捺印スルモノナリ

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事　氏名㊞

被告人証人等其陳述ヲ變更增減ス可キヿヲ申立タル片又ハ此等ノ者署名捺印スルヿ能ハサル片ハ第三十八條ノ式ニ準ス

第五章　檢審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル片ハ重罪輕罪ノ犯所ニ臨ミ檢証ヲ爲ス

第四十二條　檢証及ヒ物件差押

又檢事ノ請求アリタル片ハ如何ナル場合ト雖ヒ臨檢スル片ハ書記ノ立會ニテ家宅捜索物件差押又ハ其場所ニテ被告人証人ノ訊問ヲ爲ス（治罪法第百五十八條同第百四十八條）

第四十三條　檢証調書ハ左ノ如ク書記之レヲ作リ豫審判事ト共ニ署名捺印ス（治罪法第二十五條第二十六條第百四十八條第百五十九條）

檢証調書ノ式

檢証調書

住所身分職業氏名儀何所身分氏名方ニ寄留中其家内ニ於テ明治年月日衣類何點銀時計壹個盗取ラレタリ右ハ氏名ノ同居人何某ノ所爲ナル可キ旨告訴シタル事件何年何月日時本官等檢証ノ爲メ何所氏名ノ家ニ到リ之レヲ視ルニ該家ハ表口ハ街道ニ接シ裏口ハ川ニ面シ左右土塀ヲ以テ之レヲ境シ家内室ヲ分ツヿ大小五アリ而テ同居ノ氏名ハ入口ヨリ東ノ一室ニテ南面ノ前庭ニ對スル則チ氏名ノ客間ナリ依テ某ノ居間ニ入リ其所有ノ箪笥且押入棚ノ模様ヲ檢スルニ別ニ怪ム可キ事ナシト雖ヒ氏名ノ衣類及ヒ時計ヲ盗マレタル以前即チ明治何年何月何日時甲氏名乙氏名カ全道ニテ他行ノ際甲氏名ハ箪笥ノ錠ヲオロシ其鍵ヲ持行タレハ

其簞笥ノアク可キ理決シテ之レナキ筈ナルニ錠ハ既ニ明キ簞笥ノ内ニ入レ置キアル衣類何點銀時計一個共紛失シ裏口ノ戸ヲ開キタルノミナラス泥足ノ印跡各所ニ有之ヲ檢スルニ全ク裏口ヨリ入込ミタルモノト認ムル處又東ノ一室ニ續キ泥足ノ跡カスカニ有之ヲ見ルニ付更ニ其室ニ入リタルニ同居ノ氏名ハ驚キタル狀モナク靜ニ敬禮ヲ爲シタリ依テ紛失品取調ノ趣申聞ケタルニ氏名ハ自分所有ノ大カバン及ヒ柳行李ヲ取出シ十分ニ檢査ヲ請ケ度旨申述フ依テ之ヲ檢スルニ一モ賍物ヲ發見セス故ニ猶室内ノ戸棚等吟味ヲ遂クルニ其右ノ隅ニ一ノ小サキ鍵ヲ見出シタリ依テ之ヲ乙氏名ニ示シ又甲氏名丙氏名ニ示シタルニ孰レモ何者ノ所有ナルヲ知ラサル旨ヲ答フ然レトモ之レヲ右ノ簞笥ニ比合スルニ恰モ其開閉自由ナリ又臺所ニ就テ見レハ一筋ノ古手拭アリ

テ全ク之レ泥足ヲ拭ヒタルモノヽ如ク泥土ヲ以テ汚シタルマヽ紙屑籠ニ入レタルモノナリ之レヲ氏名ニ示シ何人ノ所有ナルヤニ問フニ其時兩氏名傍ラニ在リテ顏色忽チ變シ右ハ丙ノ品ニアラサル旨再三答フルト雖モ乙ハ之レヲ熟視シタル上全ク丙ノ所有品ニシテ曾テ乙ノ親屬某ヨリ丙ニ惠與シタルモノナリト答ヘタリ右ノ次第ニ付キ之ヲ考ルニ丙ハ明治年月日時甲乙ノ不在ニ乘シ他ヨリ盜賊ノ忍ヒ入リタル体ニ仕成シ合鍵ヲ以テ甲ノ簞笥ヲ開キ筋ニ衣類何點銀時計一個盜取リタルナラン然ルニ丙氏名ハ他國ノ産ニシテ數日前始メテ此地ニ來リ未タ一ノ知人ナキモノナレハ賍物ヲ如何爲シタルヤハ頗ル解シ難シ依テ乙ノ家内ニ於テ發見シタル錠一個並ニ手拭ヲ扣收シ之レヲ一袋ニ入レ本官等之ニ認印シ目錄ヲ作リ書記其物件ヲ某裁判所書記局ニ遞送ス

ルモノナリ

明治何年何月日時何所ニ於テ此調書ヲ作リ左ニ署名捺印ス但出張先キニ係ルヲ以テ何裁判所ノ印ヲ用フルヿ能ハス

豫審判事　氏名　印

書記　氏名　印

又現行犯ニ付テノ檢証調書ノ式モ之ニ準ス但治罪法第二百一條ノ場合ニ於テハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルヿヲ記載ス（治罪法第二百一條同第二百二條）若シ裁判所外ニテ書記ノ立會ヲ得ルヿ能ハサル件ハ治罪法第百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規則ニ從フ

第四十四條　豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ發見シタル物件其出所及ヒ模樣ニ因リ被告人ノ人違ナキヤ又ハ犯罪ノ模樣ヲ知ルニ足ルヿ可シト思料シタル時ハ之ヲ差押ヘテ認印目錄ヲ作リ書記ト共ニ

署名捺印シ監護遞送ハ書記之レヲ擔任ス（治罪法第百六十條）

第四十五條　豫審判事臨檢家宅捜索物件差押ニ付一月内ニ其處分ヲ終ラサル件ハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヿアリ（治罪法第百六十一條）

第四十六條　豫審判事ハ被告人ノ住所又ハ事實ヲ証明ス可キ物件ヲ藏匿スルノ疑ヒアル者ノ住所ニ臨檢スルヿアリ

被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住所ニ在ラサル時ハ同居ノ親屬若シ其在ラサル件ハ戸長ノ立會アルヲ要ス（治罪法第百六十二條）

治罪法第百三十三條第三項ノ規則ハ本條ニモ亦之レヲ適用ス

總テ臨檢家宅捜索ハ日出前日沒後ヲ禁ス

其家宅捜索ノ場合ニ於テ豫審判事物件ヲ差押フル件ハ第四十四條ニ同シ但目錄ノ謄本ヲ各立會人ニ渡シ受取書ヲ取ル（治罪法第百六十四條）

第四十七條　被告人ハ臨檢家宅捜索ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシムルヿヲ得

若被告人勾留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フヿヲ得ス但豫審判事本人ノ立會ヲ必要ナリトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

民事原告人及ヒ其代人ハ前ニ記載シタル處分ニ立會フヿヲ得但豫審判事其立會ノ爲メ豫審ヲ遲延スルヿヲ得ス（治罪法第百六十三條）

第四十八條　豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辨解ヲ爲サシメ其訊問及ヒ陳述ハ之レヲ調書ニ記載ス但其調書ノ式ハ第三十七條第四十三條ニ準ス

臨檢ノ場所ニテ証人ノ陳述ヲ聽クヿヲ必要ナリトスルトキハ各別ニ之レヲ訊問シ其手續ハ第五十三條以下ノ手續ニ循フ（治罪法第百六十五條同第百六十六條）

第四十九條　豫審判事ハ臨檢捜索中ノ處分中何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルヿヲ禁スルヿアリ

若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐ヒシ又ハ處分ヲ終ルマテ之レヲ其場ニ留置ス（治罪法第百六十七條）

第五十條　豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢家宅捜索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルトキハ書記ヲシテ左ノ如ク囑託書ヲ作ラシメ之ヲ送致ス（治罪法第百六十八條）

臨檢捜索ヲ治安判事ニ囑託スル書式

囑託書

住所身分職業氏名僕何々一件ニ付事實發見ノ爲メ必要ナルヲ以

ヲ何所氏名ノ宅ヲ臨檢捜索ヲ爲ス可キノ處右ハ其裁判所管内ニ付御臨檢(或ハ捜索)ノ上其調書御廻送有之度此段及囑託候也

明治　年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名 印

某治安裁判所

治安判事氏名殿

第五十一條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ驛遞電信鐵道ノ官署又ハ諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審ニ關係アル者ヨリ發シタルカ若クハ是レ等ノ者ニ對シ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取開披スルヿアリ但シ其官署及ヒ諸會社ヘハ左ノ受取証書ヲ渡ス(治罪法第百六十九條)

受取証書ノ式

受領書

一何々(書類或ハ電信或ハ物件)　何通(或ハ何點)

右受領候也

明治何年　月　日

何裁判所(或ハ何所ニ於テ)

豫審判事　氏名 印

宛名

若シ其書類不用ニ屬シタルトキハ左ノ照會書ヲ以テ還付シ其受取書ヲ取置ク

照會書ノ式

照會書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付事實發見ノ爲メ必要ナルヲ以テ御照會ノ末何々御差廻有之候處右ハ取調ノ上已ニ不用ニ屬シ候ニ付キ及還付候條御落手ノ上ハ受領証御廻シ有之度候也

明治何年　月　日

何裁判所

宛名　豫審判事　氏名印

第五十二條　豫審判事ハ前數條ノ場合ニ於テ檢證及ヒ物件差押ノ事件急速ヲ要スルトキハ直ニ巡査ヲ同行シ又ハ所在ノ巡査ヲ使用スルヿアリ（十四年司法省丙第十五号達）

第六章　證人訊問

第五十三條　豫審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トシテ指名シタル者ヲ呼出ス

原告證人被告證人ノ員數夥多ナルトキハ指名ノ順序ニ從ヒ又ハ最モ事實ヲ知ル可シト思料シタル者輕罪事件ニ付テハ各五名重罪事件ニ依テハ各十名ヲ限リ先ツ之ヲ呼出ス但シ事實發見ノ爲メ必用ナリトスルトキハ此限ニ在ラス（治罪法第百七十條）

呼出狀書式ハ第三十九條ニ同シ

第五十四條　證入ハ豫審判事ノ名ヲ以テ之ヲ呼出シ其呼出狀ハ治罪法第二十三條ノ規則ニ從ヒ之ヲ送達スルヿ左ノ書式ノ如シ若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ輕罪裁判所書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス但其書式ハ順次左ニ示ス（治罪法第百七十一條）

送達書ノ式（十四年司法省丁第二十八号達）

用紙美濃ノ類　輪郭寸法　竪七寸五分　横五寸四分

送達書

一送達スヘキ書名　何冊
一同　何通

右使丁ヲ以テ何府縣下何町又ハ何郡何村何番地何某ヘ送達セシムル者也

明治　年　月　日　何裁判所之印

何裁判所

書記　氏名印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若シハ戸長ヘ書類ヲ渡シタルトキハ其事由

右致送達候也

使丁　氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

送達書

一送達スヘキ書名　何冊
一同　何通

右使丁ヲ以テ何府縣下何町又ハ何區何郡何村何番地何某ヘ送達セシムル者也

明治　年　月　日

何裁判所　何裁判所之印

書記　氏名印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル件ハ其事由	
送達シタル月日時	
送達シタル場所	
親屬雇人若シハ戸長ヘ書類ヲ渡シタル件ハ其事由	

右致送達候也

使丁　氏名印

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

呼出狀送達ノ事ヲ囑託スル書式

囑託書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付証人トシテ呼出ス可ク處本人ハ其管内居住ノ者ニ付別紙呼出狀送達方御取計有之度此段及囑託候也

明治年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

何輕罪裁判所
書記氏名殿

第五十五條　証人裁判所々在ノ地ニ住セサルトキ又ハ管轄地外ニ在ルトキハ其住所ノ地ノ治安判事若クハ豫審判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトアリ

其囑託ヲ受ケタル豫審判事ハ其名ヲ以テ呼出狀ヲ發スヲ之レテ送達スルハ書記ヨリス（治罪法第百七十三條）

呼出狀ヲ發スル手續ハ第二十九條及ヒ第五十三條ニ同シ

第五十六條　証人疾病公務其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スルヿ能ハサルカ若クハ皇族又ハ勅任官ナルトキハ豫審判事書記ト共ニ其所在ニ就テ陳述ヲ聽キ通常ノ規則ニ從テ調書ヲ作ル（治罪法第百七十四條同第百八十七條）

第五十七條　証人ト爲ル可キモノ陸海軍ノ軍人軍屬ナルトキハ通常ノ呼出狀ヲ以テ其所屬長官ヲ經由シ呼出狀ヲ送達スル手續ハ前

ニ同シ

其長官ハ即時ニ出廷セシム可キヿヲ認可シ或ハ職務上已ムヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出廷ノ延期ヲ豫審判事ニ請求スルヿアリ（治罪法第百七十五條）

第五十七條　豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除クノ外證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ言渡書ヲ作リ罰金ヲ言渡ス但其言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ若クハ直ニ勾引狀ヲ發スルハ通常ノ手續ニ從フ其費用及ヒ罰金ハ檢事ノ命令書ニ依リ書記ニ於テ之ヲ徴收ス

一金言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス

罰金ハ二圓已上十圓以下トス（治罪法第百七十六條同第四百六十二條）

罰金言渡書ノ式

住所身分職業氏名ハ証人トシテ明治何年何月何日當裁判所ヘ出頭ス可キ旨ノ呼出ヲ受ケナカラ正當ノ事故ナクシテ其呼出ニ應セサルヲ以ヲ檢事ノ意見ヲ聽キ治罪法第百七十六條ニ証人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シト有ルニ依リ罰金何圓申付ル者也

明治何年何月何日

何裁判所　　係審判事　氏名印

書記　氏名印

第五十八條　豫審判事ハ証人初度又ハ再度ノ呼出狀ヲ受ケサルヿヲ豫知シ難キ正當ノ事故アリテ出廷スル能ハサリシヿヲ証明シタル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金ノ言渡ヲ取消ス事アリ此ノ場合ニ於テハ左ノ言渡書ヲ作リテ其取消ノ言渡ヲ爲ス（治罪法第百七十七條）

罰金言渡ヲ取消スノ言渡書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ証人トシテ明治何年何月日出頭ス可キ旨ノ呼出ニ應セサルヲ以テ罰金何圓申付ケタル處右ハ何々ノ事故ニ因リ出廷スルヿ能ハサル儀其証明ニ依リ判然シタルニ付キ檢事ノ意見ヲ聽キ治罪法第百七十七條ニ依リ右罰金ノ言渡ヲ取消ス者也

明治何年何月何日

何裁判所

像審判事　氏名

書記　氏名

第五十九條　證人呼出ニ應シ出廷シタルトキハ其呼出狀ヲ書記ニ差出シ書記ハ之ヲ受取リ像審判事ニ報告ス若シ呼出狀ヲ遺失シタルトキハ其人違ヒナキヿヲ證明セシム（治罪法第百七十八條）

第六十條　像審判事ハ書記ニ命シ其出廷シタル證人ヲ一人宛訟廷ニ呼込マシメ而テ氏名年齡職業住所及ヒ左ニ記載シタル者ナルヤ否ヲ問フ（治罪法第百七十九條）

一民事原告人

二民事原告人及ヒ被告人ノ親屬

三民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ是等ノ者ノ後見ヲ受クルモノ

四民事原告人及ヒ被告人ノ雇人（治罪法第百八十一條）

第六十一條　證人ハ他ノ證人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ訊問シ且事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシム（治罪法第百八十四條）

第六十二條　其證人トシテ呼出サレタル者治罪法第百八十一條ニ記載シタル者ニ非ル旨ヲ陳述シ且治罪法百八十二條ニ記シタル者ニ非スト思料シタルトキハ第四十條ノ如ク宣誓ヲ爲サシム書記ハ其宣誓書ヲ訴訟書類ニ添ヘ置ク（治罪法第百八十條）

第六十三條　治罪法第百八十一條及ヒ第百八十二條ニ定メタル者事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クヿヲ要スル場合ニ於テハ書記左ノ

調書ヲ作ル其呼出狀ハ前條ノ式ニ同シ（治罪法第百八十一條 同第百八十二條）

參考人調書ノ式

參考人調書

住所身分職業氏名儀何所ニ於テ何々犯罪事件ニ付事實參考ノ爲メ本日住所身分職業氏名ヲ訊問シタル處其陳述左ノ如シ

一 自分儀氏名年齡職業住所ハ何々、、、、、、、、、、、、、、

一 自分何所ニ於テ何々、、、、、、、、

一 何年何月日氏名ト何所ニ於テ會合シタル時何々、、、、、、、、

一 何々ハ何々、、、、

右氏名ニ讀聞カセタル處其陳述ノ相違ナキ旨申立ツ依テ本官等共ニ署名捺印スルモノ也

又右ノ口書ヲ變更增減センコヲ求メタル件ハ左ノ式ニ依ル

右氏名ニ讀聞カセタル處左ノ件々變更增減センコヲ請求セリ

一 何々ノ事件聞及ヒタル前何々ノ事ヲ何所ニ於テ見受ケタルコアリ

一 何々ノ旨陳述セシハ何々ノ違ヒナリ

右ノ口書ヲ讀聞カセタル處相違ナキ旨ヲ陳ヘタリ依テ本官等氏名トトモニ署名捺印スルモノ也

明治　年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名　印

書記　氏名印

又參考人署名捺印スル能ハサル件ハ左ノ如ク記載ス

參考人　氏名(印)

右ノ口書ヲ讀聞カセタル處相違ナキ旨ヲ述ヘタリ然ルニ氏名ハ何々ニ付署名捺印スル能ハサル旨申立ツ依テ本官等ノミ茲ニ署名捺印スルモノ也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

第六十四條　證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル件ハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス

罰金言渡書式ハ左ニ倣フ

醫師藥業穩婆又ハ代言人辯護人代書人公證人若クハ神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ付キ委託ヲ受ケタルモノハ前項ノ例ニ在ラス(治罪法第百八十三條)

證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓ヲ爲シテ陳述ヲ肯セサルトキ

罰金ヲ言渡ス書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ證人トシテ明治何年何月日呼出ヲ受出廷シタル處故ナク宣誓ヲ肯セサ(或ハ宣誓ヲ爲シテ陳述ヲ肯セサルニ)ル

ニ付檢事氏名ノ意見ヲ聽キ治罪法第百八十三條ニ證人宣誓ヲ肯セサルカ又ハ宣誓メ陳述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百七十九條及ヒ第百八十條ニ依リ其罰金四圓以上四十圓已下トアルヲ以テ罰金何十圓ニ處スルモノ也

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事　氏名 印

書記　氏名 印

鑑定人宣誓ヲ肯セサルカ又ハ宣誓ヲテ鑑定ヲ肯セサルトキニ於テ言渡ス罰金ノ書式モ亦タ之ニ準ス

第六十五條　豫審判事ハ證人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリトスルトキハ重罪輕罪ノ犯所ニ同行ス可キヿヲ證人ニ命ス其犯所ニ至レハ書記調書ヲ作リ豫審判事及ヒ證人ト共ニ署名捺印ス（治罪法第百八十五條）

第六十六條　前條ノ場合ニ於テ證人同行人ヲ肯セサルトキハ左ノ罰金言渡書ヲ作リ之レニ罰金ヲ言渡ス（治罪法第百八十五條第百七十六條）

同行スルヿヲ肯セサルトキ言渡罰金書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ証人トシテ何住所身分職業何某カ罪ヲ犯シタル何所ニ同行スルヲ命スルニ故ナク肯セサルヲ以テ檢事氏名ノ意見ヲ聽キ治罪法第百八十五條及ヒ第百七十六條ノ規則ニ依リ證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ二圓已上十圓已下ノ罰金ヲ言渡ス可シトアルニ照シ罰金何圓ニ處スルモノ也

ニ付檢事氏名ノ意見ヲ聽キ治罪法第百八十三條ニ證人宣誓ヲ肯セサルカ又ハ宣誓メ陳述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百七十九條及ヒ第百八十條ニ依リ其罰金四圓以上四十圓已下トアルヲ以テ罰金何十圓ニ處スルモノ也

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

鑑定人宣誓ヲ肯セサルカ又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルトキニ於テ言渡ス罰金ノ書式モ亦タ之ニ準ス

第六十五條　豫審判事ハ證人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリトスルトキハ重罪輕罪ノ犯所ニ同行ス可キヿヲ證人ニ命ス其犯所ニ至レハ書記調書ヲ作リ豫審判事及ヒ證人ト共ニ署名捺印ス（治罪法第百八十五條）

第六十六條　前條ノ場合ニ於テ證人同行人ヲ肯セサルトキハ左ノ罰金言渡書ヲ作リ之レニ罰金ヲ言渡ス（治罪法第百八十五條第百七十六條）

同行スルヿヲ肯セサルトキ言渡罰金書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ証人トシテ何住所身分職業何某カ罪ヲ犯シタル何所ニ同行スルヲ命スルニ故ナク肯セサルヲ以テ檢事氏名ノ意見ヲ聽キ治罪法第百八十五條及ヒ第百七十六條ノ規則ニ依リ證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ二圓已上十圓已下ノ罰金ヲ言渡ス可シトアルニ照シ罰金何圓ニ處スルモノ也

明治　年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

第六十七條　書記ハ證人ノ陳述ヲ錄取シ左ノ調書ヲ作リ豫審判事ハ書記ヲシテ之ヲ讀聞カサシム是等ノ手續ハ治罪法第百八十八條同第百八十九條ノ規則ニ從フ（治罪法第百八十八條同第百八十九條）

證人調書ノ式（治罪法第百七十九條第百八十條第百八十一條第百八十四條第百八十七條第百八十八條第百八十九條）

證人氏名調書

明治何年何月日豫審判事氏名ハ何所ニ於テ書記氏名ノ立會ニテ被告人某カ何々犯罪事件ニ付キ證人氏名ヲ訊問爲シタル所左ノ如ク陳述ス

一　自分氏名ハ何々年齡ハ何年何月身分ハ何々職業ハ何々住所ハ何、、、、、、、

一　自分ハ民事原告人ニ在ラス

一　自分ハ民事原告及ヒ被告人ノ親屬或ハ是等ノ後見人又ハ是等ノ者ノ後見ヲ受クル者ニ在ラス

一　自分ハ民事原告人及ヒ被告人ノ雇人ニ在ラス

證人氏名ハ宣誓ヲ爲シタル上ニテ左ノ陳述ヲ爲シタリ（或ハ證人何某ハ何々ニ付宣誓ヲ爲サスシテ左ノ如ク陳述ヲ爲ス治罪法第百八十三條ノ第二項ニ記シタル者ノ類）

一　何所ニ於テ何々、、、、、、、、、、、、

一　何某ハ何々、、、、、、、、、、、、、、
一　何々、、、、
一　何々、、、、、、
一　年月日何々ノ事ヲ何所ニ於テ見受ケタルヿ云々、、、、、、
、、、、、
一　何々、、、、、、、、、
証憑物件何品何點ヲ証人ニ示ス
一　今示サレタル何品ハ自分カ盗マレシ品ニ相違之レナク且其
品ノ裏面ニ何々ノ目印アリ云々
一　何々品ハ更ニ知ラス云々
一　何々ハ、、、、
右陳述ノ件々証人氏名ニ讀聞カセタル所毫モ相違ナキ旨ヲ申供

ス依テ本官等氏名ト共ニ署名捺印スルモノ也
明治何年　月　日
何裁判所
豫審判事　氏名㊞
書記　氏名㊞
証人　氏名㊞

証人其陳述ヲ變更増減センヿヲ請求シタルトキハ左ノ如ク記ス
右件々氏名ニ讀聞カセタル所其陳述ヲ左ノ如ク變更増減センヿ
ヲ請求ス
一　何々物品ハ更ニ知ラスト陳ヘタルハ全ク相違云々、、、、
、、、、
一　何々ハ何々ト申立シハ云々ノ相違ナリ

一何々、、、、、

右氏名ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違無之旨申立ツ依テ本官等氏名ト共ニ署名捺印スルモノナリ

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

證人　氏名印

若證人署名捺印スルヿ能ハサル片ハ

右何某ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨申立ツ但シ何々ニ付(署名捺印スル能ハサル事由)署名(或ハ捺印)スルヿ能ハサル旨ヲ述ルニ付本官等ノミ左ニ署名捺印スルモノ也

明治何　年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

證人　氏名(印)

(右署名スルヿ承ハサル片ノ式ナリ)

證人　氏名

(右捺印スルヿ能ハサル片ノ式ナリ)

公判ノ証人調書モ此ノ式ニ準ス然レ𪜈本文中(書記氏名ノ立會ニテ)トアルヲ(撿事氏名書記氏名ノ立會ニテ)ニ作リ(豫審判事)ヲ(判事)ニ作ルナリ

第六十八條　証人聾者啞者又ハ國語ニ通セサル片ハ治罪法第百

五十六條同第百五十七條ノ規則ニ從フ（治罪法第百八十六條）

第六十九條　証人ハ出廷ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルヿヲ得但シ其路程及ヒ日數等明記シタル書面ヲ書記局ニ差出サシム（治罪法第百九十條第一項）

第七十條　證人日稼ヲ以テ生業トスル者ナルトキハ旅費日當ノ外日稼高ニ等シキ金額及ヒ其事由等前條ノ書面中ニ詳記セシム（治罪法第百九十條第二項）

第七十一條　豫審判事ハ前二條ノ金額ヲ定メ左ノ言渡書ヲ作リ直ニ之ヲ言渡ス（治罪法第百九十條第三項）

言渡ノ書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ何府縣國郡區町村番地身分職業某ノ何々事件ニ付證人トシテ呼出ヲレタル其旅費日當金若干圓其他日稼ヲ以テ生業トスル趣キヲ以日稼高ニ等シキ償金若干圓ヲ要ムル處右事實相違無之ト認定ス依テ要求ノ通リ金何十圓下渡ス者也

明治何年何月何日

何裁判所　豫審判事　氏名印

書記　氏名印

右日當旅費及ヒ日稼高ニ等シキ金額ヲ要ムルト雖ヒ其過當ナリト認メタルトキハ本文中償求若干圓ヲ要ムル處右ノ下ヲ（何々ノ理由ニテ其要ムル金額過當ナルニ因リ之ヲ節減シ金若干圓下渡スモノナ

リ)ニ作ルナリ

又旅費日當及ヒ日稼高ニ等シキ償金ヲ下渡シタル證人ヨリ左ノ受證ヲ出サシム

受取證ノ式

御受書

一金若干圓

右ハ何某何々ノ一件ニ付自分證人トシテ御呼出ニ相成依テ其旅費日當及ヒ日稼高ニ等シキ金員前書ノ通リ要求仕候處直ニ御下渡ニ相成正ニ受取候也

明治　年　月　日

何住所身分職業

氏名㊞

何裁判所

豫審判事氏名殿

第七章　鑑定

第七十二條　豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ必要ナリトスル時ハ學術職業ニ因リ鑑定スルヲヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定セシムルヲアリ(治罪法第百九十一條)

呼出狀ハ書記ヨリ發シ其送達及ヒ罰金言渡又ハ言渡ヲ取消ス等ハ證人ニ付テノ手續キニ同シ(治罪法第百九十一條同第百九十二條第一項)

第七十三條　鑑定人呼出ニ應セサルトキハ治罪法第百七十六條ノ規則ニ從ヒ處分ス但勾引狀ヲ發スルヲヲ得ス

治罪法第百七十七條ノ規則ハ本年ノ場合ニモ亦タ之ヲ適用ス（治罪法第百九十二條第二項）

第七十四條　鑑定人ヲ命スルニハ治罪法第百九十五條ニ從ヒ命令書ヲ以テ之ヲ命シ其命令書及ヒ宣誓書式ハ證人通事人ニ同シ書記ハ鑑定人ノ宣誓シタルヿヲ鑑定命令書ノ紙尾ニ記載シ之ニ其宣誓書ヲ添ヘ置ク（治罪法第百九十三條）

第七十五條　治罪法第百八十一條第百八十二條ニ記載シタル者ニハ鑑定ヲ命セス但シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ト爲ル可キ者ナキトキハ事實參考ノ爲メ鑑定ヲ命スルヿアリ（治罪法第百九十五條）

豫審判事ハ成ル可ク鑑定ニ立會フヲ要ス（治罪法第百九十六條）

第七十六條　豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職業ヲ以テ鑑定人ヲ增加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルヿアリ（治罪法第百九十七條）

第七十七條　鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其手續結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス若シ結果ヲ得サル件ハ其推則スル所ヲ記載シ其意見ヲ異ニスル件ハ各自鑑定書ヲ作リ又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス（治罪法第百九十八條）

第七十八條　鑑定人ハ鑑定書ニ年月日ヲ記シ署名捺印及ヒ契印ス又鑑定書ニハ豫審判事之ヲ受取リ年月日ヲ記載シ書記ト共ニ檢印ス

外國人鑑定ヲ爲シタル時ハ其鑑定書ニ裁判所ヨリ命シタル通事ノ作リタル譯本ヲ添ヘ置ク（治罪法第百九十九條）

第七十九條　鑑定人通事人ノ旅費給料及ヒ相當ノ費ハ鑑定人通事ヲシテ其金額ヲ記シタル書面ヲ差出サシメ判事檢印ノ上會計課ニ送付シ下渡ノ手續ヲ爲サシム（治罪法第二百條）

第八章　現行犯ノ豫審

第八十條　豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルヿヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス直ニ豫審ニ取掛リ左ノ通知書ヲ以テ其旨ヲ通知ス

豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他治罪法章ニ定メタル規則ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲ス（治罪法第二百一條）

若シ急速ヲ要セサルトキハ檢事ニ通知シ其請求ヲ待テ豫審ニ着手ス

豫審判事ヨリ檢事ヘ通知書ノ式

通知書

住所身分職業氏名ハ明治何年月日何地ニ於テ何々ノ罪ヲ犯シ其犯罪タルヤ現行ニシテ最モ急速ヲ要スルニ付直ニ豫審ニ取掛リ候條此段及御通知候也

明治　年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名　印

某裁判所

檢事氏名殿

第八十一條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖ヒ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタル者トス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルヿヲ記載ス豫審判事ハ速カニ書類ヲ檢事ニ送致ス但シ檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼續ス可キ者ニ非サルノ意見アリト雖ヒ通常ノ規則ニ從ヒ之ヲ終結ス（治罪法第二百二條）

本條ノ場合ニ於テ檢事ヘ書類ヲ送致スルトキハ左ノ式ニ從フ

送致書式

送致書

住所身分職業氏名云々事件ニ付明治何年月日及御通知置直ニ豫審ニ取掛リタル上檢証相濟候書類左ニ

一何々　何通

一何々　何冊

右及御送致候也

明治　年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名　印

某裁判所

檢事氏名殿

第八十二條　檢事ニ於テ先キニ現行犯罪アルヿヲ知リ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シ其書類ト意見書等ヲ送致ス

但罰金ノ言渡ヲ爲スヿヲ得ス又証人及ヒ鑑定人ノ陳述ハ宣誓ヲ用フルヿナシ之ヲ聽シ（治罪法第二百三條第二百四條）

第八十三條　治罪法第二百三條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フヿヲ得但シ令狀ヲ發スルヿヲ得ス

司法警察官ハ証憑書類ニ意見書ヲ添ヘ被告人ト共ニ速ニ之ヲ檢事ニ送致ス（治罪法第二百五條）

第八十四條　檢事被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ調書ヲ作リ勾留狀ヲ發スルト否トヲ問ハス一切ノ書類ニ請求

書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス

若シ起訴ヲ爲ス可カラサル者ト認メタルトキハ直ニ被告人ヲ放免ス（治罪法第二百六條）

第八十五條　豫審判事ハ二十四時内ニ被告人ヲ訊問ス但此ノ場合ニ於テハ檢事ノ發シタル勾留狀ヲ解キ又ハ之ヲ存スルヿモアリ（治罪法第二百七條）

勾留狀ヲ解クニハ左ノ言渡書ヲ以テス

勾留狀ヲ解クノ言渡書式

言渡書

住所身分職業何某ハ云々事件ニ付明治何年何月何日檢事ニリ拘留シタル處右ハ勾留ス可キモノニ在ラスト思料スルニ依リ該令狀ヲ解クモノ也

明治　年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

第八十六條　豫審判事ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲シタル手續ニ付キ更ニ其取調ヲ爲スヿヲ得但檢事又ハ司法警察官ノ作リタル調書ハ之ヲ訴訟書類ニ添ヘ置ク（治罪法第二百八條）

第八十七條　檢事ハ現行犯ニ係ル場合ニ於テ勾留狀ヲ發シタルト否トニ拘ラス被告人ヲ訊問シタル後豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキハ直チニ輕罪裁判所ニ呼出スヿヲ得（治罪法第二百九條）

第九章　保釋

第八十八條　豫審判事ハ豫審中勾留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人保釋ヲ請求シタル片ハ檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ証書ヲ差出サシメ保釋ヲ許スヿヲ得但被告人無能力ナル片ハ親屬又ハ代人ヨリ保釋ヲ求ムル片亦前項ニ同シ（治罪法第二百十條）

保釋證書ノ式

保釋證書

自分儀（又ハ住所身分職業氏名儀今般保釋願上候處即チ御差許相成リ候上ハ何時ニテモ御呼出ニ應シ出廷可致（又ハ可爲致）候依テ證書差上候也

（若シ親屬又ハ代人ヨリスル片ハ）

何某親屬（又ハ代人）

住所

願人　氏名　印

明治何年何月何日

某裁判所

豫審判事氏名殿

第八十九條　前條ノ證書ハ書記局ニ差出ス

保釋中被告人ヲ呼出ス片ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其報知ヲ爲スモノトス

保釋ヲ許スニハ金圓ヲ以テ被告人ノ出廷ヲ保證セシム其保証金額ヲ定ムルハ豫審判事之ヲ爲シ書記ヲシテ左ノ言渡書ヲ作ラシメ之

ス（治罪法第百十一條同第百十二條）

保釋言渡書ノ式

保釋言渡書

何住所身分職業氏名ハ何々事件ニ付審問中勾留（又ハ收監）申付ケ置キタル處本人（又ハ親屬某或ハ代人某）ノ請願ニ依リ保釋差許候條氏名ノ出廷ヲ保證スル爲ノ金何百圓某ヨリ差出ス可キ者也

明治　年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

第九十條　保釋ヲ爲スニハ本人又ハ他ノ者ヲシテ保釋金若クハ貯金預所又ハ銀行ノ預証書ヲ書記局ヘ差出サシム書記之ヲ受取リタル件ハ直ニ左ノ通知書ヲ以テ監倉長ニ通知シ其金員等ハ保証金假預ケ帳ニ登記シ判事書記之レニ檢印シ會計課ニ付シ受領印ヲ取リ置ク（治罪法第二百十三條）

監倉ヘ通知書ノ式

通知書

住所身分職業氏名儀本日保釋差許候條此段及通知候也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

何府縣
監倉長氏名殿

第九十一條　裁判所ノ管轄地内ニ住シ充分ナル資力アル者ト確認スヘキ者ヨリ左ノ保釋證書ヲ差出シタルトキハ亦前條ノ手續キニ同シ（治罪法第二百十三條第二項）

保證書ノ式

保證書

何住所身分職業氏名儀今般保釋願上御許可相成候ニ付保證金何百圓ハ何時ニテモ自分ヨリ完納可仕候依テ此段保證致候也

明治何年何月何日

何住所身分職業
氏名
自署

何裁判所
豫審判事何某殿

第九十二條　豫審判事ハ被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事故ナクシテ出廷セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ如ク保證金沒入並ニ保釋取消ノ言渡書ヲ作リ之ヲ言渡シ書記ヲシテ沒入保證金引渡帳ニ被告人ノ住所職業氏名ト其沒入スル金員ヲ明記セシメ判事書記之ニ檢印シ會計課ヘ送付シ受領印ヲ取リ且同時ニ保證金假預帳中該金ニ係ル部分ノ處ニ其旨ヲ記入シ判事書記及ヒ會計課掛員之ニ檢印ス（治罪法第二百十四條同第二百十五條第二百十六條第一項）

保釋金沒入並ニ保釋取消ノ言渡書式

言渡書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付拘留(又ハ收監)中保釋差許シ置ク處明治何年月日時當何裁判所ニ出廷ス可キノ呼出ヲ受ケ正當ノ事故ナクシテ出廷セサルヲ以テ檢事ノ意見ヲ聞キ治罪法第二百十四條同第二百十六條ニ依リ其保証金何拾圓(又ハ何十圓ノ內何圓何十錢)沒入ノ上保釋ノ言渡ヲ取消スモノ也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

若シ他人ノ保証ニ係ルトキハ其旨ヲ檢事ニ通知シ徵收ノ處分ヲ請求ス(治罪法第二百十五條第二項)

第九十三條　豫審中必要ナリトシテ保釋ノ言渡ヲ取消スニハ檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ言渡書ヲ作リ之ヲ言渡シ保釋金ハ書記ヲシテ保証金假預ケ帳ニ照合シ會計課ヨリ之ヲ受取ラシメ且其帳ニ其旨ヲ記シ常ノ如ク之ニ檢印シ直ニ該金ヲ下付シ受取証書ト交換セシム但受取証書ハ一件袋ニ添ヘ置ク(治罪法第二百十六條第二項)

保釋ヲ取消ス言渡ノ書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ曾テ請求ニ因リ保釋差許置ク處必要ノ廉有之ヲ以テ檢事ノ意見ヲ聽キ右保釋ノ言渡ハ取消スモノ也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

第九十四條　前條ノ場合ニ於テハ更ニ令狀ヲ用ヒス書面ヲ以テ其旨ヲ監倉長ニ通知シ被告人ヲ引渡スノ手續キヲ爲ス

第九十五條　治罪法第二百十七條第二百十八條ノ場合ニ於テ保証金ヲ還付スルニハ其帳簿ニ照シ書記ヲシテ該金ヲ會計課ヨリ取戻サシメ其旨ヲ帳簿ニ記入シ通常ノ如ク之ニ檢印シ其受取リタル金額ハ受取証書ト引換ヘニテ還付ス但受取証書ハ一件袋ニ入レ置ク（治罪法第二百十七條第二百十八條）

第九十六條　豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ賣付スルヿアリ

本條ノ場合ニハ被告人ヨリ其親屬故舊ノ住所氏名ヲ聽取リ通常ノ手續ヲ以テ之ヲ呼出シ被告人ト共ニ訟廷ニ呼出シテ賣付セル旨ヲ口達ス（治罪法第二百十九條）

被告人ヲ賣付スルトキハ保管人ヨリ左ノ受書ヲ出サシメ其旨ヲ監倉長ニ通知ス

受書ノ式

御受書

何住所身分職業氏名儀御審問中自分ヘ賣付相成候ニ付テハ御呼出ニ應シ何時ニテモ出廷致サセ可申此段御受仕候也

明治何年月日

何裁判所

豫審判事氏名殿

某親屬(或ハ故舊)

住所身分職業

氏　名(印)

自署

第十章　豫審終結

第九十七條　豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ他ニ取調ヲ要スルヿナシト思料シタル片ハ豫審終結ノ處分ニ付檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ一切ノ訴訟書類ヲ送致ス

檢事ハ訴訟書類ニ意見ヲ付シ三日內ニ之ヲ還付ス(治罪法第二百二十條)

第九十八條　檢事ハ豫審充分ナラスト思料シタル時ハ其條件ニ付キ更ニ取調ヲ請求スルヿアリ若シ豫審判事其請求ヲ肯セサル片ハ檢事訴訟書類ニ意見ヲ付シ二十四時內ニ之レヲ還付ス(治罪法第二百二十一條)

第九十九條　豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後ニ記載シタル言渡ヲ以テ豫審ヲ終結ス(治罪法第二百二十二條)

第百條　第九十七條ノ場合ニ於テ檢事ニ訴訟書類ヲ送付スル片ハ左ノ照會ヲ以テ送付ス(治罪法第二百二十條第一項)

檢事ヘ照會書ノ式

照會書

住所身分職業氏名儀竊盜(或ハ强盜ノ類)事件取調ニ付御意見承知致度依テ一切ノ訴訟書類及送致候也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

何裁判所

檢事氏名殿

第百一條　第九十八條ノ場合ニ於テ檢事ヨリ其豫審充分ナラストシ三日内更ニ取調ノ請求ヲ受ケタルトキハ通常豫審ノ手續ヲ行フ若シ其請求ヲ肯セサルニハ左ノ書面ヲ以テ其旨ヲ廻答シ其二十四時内ニ書類ノ還付ヲ受ケタルトキハ檢事ノ意見ニ拘ラス豫審終結ヲ爲ス（治罪法第二百二十一條第二百二十條）

豫審判事檢事ノ請求ニ肯セサルトキ廻答書ノ式

廻答書

住所身分職業氏名儀何々犯罪事件豫審ニ付御照會ノ趣ニ候處本件ハ已ニ豫審ヲ遂ケ此上取調ヲ要ス可キ廉無之候條右及廻答候也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

某裁判所

檢事氏名殿

第百二條　豫審終結ノ言渡ハ豫審判事ニ於テ治罪法第二百廿八

條第二百二十九條第二百三十條ノ規則ニ照シ第二百三條以下ニ記スル區分ニ從ヒ言渡書ヲ作リ書記ト共ニ署名捺印シ猶ホ裁判所ノ印章ヲ捺用ス

書記ハ速ニ其謄本ヲ作ルヿ左ノ如クシ第五十三條ニ示ス送達書ヲ添ヘ之ヲ檢事民事原告人及ヒ被告人ニ送達ス（治罪法第二百三十條）

被告人ノ陳述書又ハ豫審終結ノ言渡書又ハ裁判言渡書ノ

謄本式

本文何々、、、

右正本ニ依リ謄寫スル所相違無之モノ也

明治何年　月　日

何裁判所

書記　氏　名　印

若シ裁判言渡書ナル𪜈ハ左ニ作ル

右正本ノ抜書ニ相違無之モノ也

明治何年　月　日

何裁判所

書記　氏　名　印

第百三條

豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ラサルヿヲ認メタル𪜈ハ左ノ言渡書ヲ作リ之ヲ言渡シ若シ拘留ヲ要スル者ト認メタル𪜈ハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ

交付ス（治罪法第二百二十三條）

被告事件管轄ニ在ラサルヿヲ認メタルトキノ言渡書式

言渡書

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ何住所身分職業氏名ノ何々事件ニ付キ豫審ヲ遂クル處何々ノ証憑ニ依レハ氏名ハ何府縣何國何郡區何町村某宅ヘ明治何年月日ノ夜兇器ヲ携ヘ押入金錢其他衣類强取シタルモノナルヲ以テ其犯罪ノ地タルヤ當何裁判所ノ管轄ニ非ラストス依テ治罪法第四十條同第二百二十三條ニ依リ管轄ニ在ラサルヿヲ言渡シ且明治何年何月何日ニ發シタル拘留狀ヲ存シ右事件ヲ檢事ニ交付スル者也

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

又ハ其證憑充分爲ラサルトキ免訴ノ言渡書式

言渡書

何輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ住所身分職業氏名カ明治何年何月何日何處ニ於テ何々ヲ爲シタル事件ニ付キ豫審ヲ遂クル處云々其他證人氏名ノ申立ニ於テモ何々ニ付其證憑充分ナラサルヿヲ以テ治罪法第二百二十四條ニ犯罪ノ證憑充分ナラサルトキハ免訴ノ言渡ヲ爲ストアルニ依リ免訴スルモノ也

明治何年何月何日

何裁判所

係審判事　氏名印

書記　氏名印

第百四條　被告事件違警罪ナリト思料シタルトキハ左ノ言渡書ヲ以テ違警罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ且被告人拘留ヲ受ケタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス（治罪法第二違警罪ニ付テハ十四年十二月第八百二十五條十号布告ニ依リ當分ノ内各地方警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ裁判ス）

違警罪裁判所ニ移スノ言渡書式

言渡書

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ住所身分職業氏名ノ被告タル何々事件豫審ヲ遂クル處被告人犯罪ノ證憑ニ依レハ刑法第四百二十五條第一項ニ云々トアルヲ適用スヘキ違警罪ナリト依テ右事件何違警罪裁判所ニ移スモノ也

明治何年何月何日

何裁判所

係審判事　氏名印

書記　氏名印

被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ但書ヲ加フ其書式輕罪裁判所ニ移スノ言渡書ノ例ニ同シ

又被告人拘留ヲ受ケタルトキハ言渡書ノ本文中（何違警罪裁判所ニ移）ストアル下文ヲ（シ氏名ノ勾留ヲ釋放スルモノ也）ニ作ルナリ

第百五條　被告事件輕罪ナリト思料シタルトキハ左ノ言渡書ヲ以テ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス

若シ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ者コシテ未タ拘留ヲ受ケサル片ハ令狀ヲ發シ及ヒ勾留ヲ受ケタル者ニ對シ保釋責付ヲ爲スヿアリ其勾留人罰金ノ刑ニ該ルヘキ者ト思料シタル片ハ釋放ノ言渡ヲ爲(治罪法第二百二十六條)

輕罪裁判所ヘ移スノ言渡書式

言渡書

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ住所身分職業氏名ノ被告タル何々事件ニ付豫審ヲ遂クル處被告人犯罪ノ証憑左ノ如ク充分ナリトス

一　何々、、、

一　何々、、、

右ニ依被告人氏名ハ明治何年何月何日何地ニ於テ何々ノ事ヲ爲シタルヿ証明スルヲ以テ刑法第何十條ニ云々トアルヲ適用スヘキ輕罪ナリトス依テ右事件ヲ某輕罪裁判所ニ移スモノ也(被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ此ノ但書ヲ加フ)

(但シ此言渡ニ付豫審判事ノ管轄違越權又ハ其事件ヲ移ス可キ裁判所ノ管轄違ヒナリト思料スルニ於テハ故障ヲ爲スヿヲ得其期限ハ一日ナリトス)

明治何年　月　日

何裁判所

豫審判事　氏名　印

書記　氏名　印

被告人拘留ヲ受ケタル塲合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シ

タルトキハ言渡本文中(某輕罪裁判所ニ移)トアル下文ヲ(シ氏名ノ拘留ヲ釋放スルモノ也)ニ作ルナリ其他禁錮ノ刑ニ該ル可キ者ト思料スルトキ保釋ヲ許ス等ハ治罪法第二百二十六條第二項第三項ニ從フ

第百六條　被告事件重罪ナリト思料シタルトキハ左ノ言渡書ヲ以テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ且保釋責付ヲ爲シタルモノハ其取消ノ言渡ヲ爲ス(治罪法第二百二十七條)

重罪裁判所ヘ移スノ言渡書式

言渡書

何輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ住所身分職業氏名ノ被告タル何々事件豫審ヲ遂クル處被告人犯罪ノ證憑左ノ如ク充分ナリトス

一　何々、、、、、

一　何々、、、、、

右ニ依リ被告人氏名ハ明治何年何月何日何所ニ於テ云々事件ヲ爲シタルヿ証明スルヲ以テ刑法第何十條ニ云々トアルヲ適用ス可キ重罪ナリトス依テ(保釋ヲ許シ(又ハ責付ヲ爲シタルトキハ)(保釋)(責付)ノ言渡ヲ取消シ)右事件ヲ何重罪裁判所ニ移シ且某控訴裁判所檢事長ノ指揮アルマテ氏名ヲ當裁判所監倉ニ留置スルモノナリ(被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ)(此ノ但書ヲ加フ)

(但此言渡ニ對シテハ故障ヲ爲スヿヲ得其期限ハ一日ナリトス)。

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事　　氏名印

第百七條　豫審終結ノ言渡ニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付ス

管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲スニハ其原由ヲ若シ被告人ヲ勾留ス可キトキモ其原由ヲ明示ス

免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件罪トナラサルヿ公訴受理ス可カラサルヿ及ヒ其原由又犯罪ノ証憑充分ナラサルトキハ其旨ヲ明示ス

違警罪裁判所輕罪裁判所又ハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スニハ犯罪ノ性質模樣証憑ノ充分ナルヿ及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ明示ス（治罪法第二百廿八條）

第百八條　前條ノ言渡書ニハ治罪法第百三十條ノ規則ニ從ヒ被告人ノ氏名等ヲ明示ス（治罪法第二百廿九條）

第百九條　檢事民事原告人及ヒ被告人等前條ノ言渡ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シタルトキハ第百廿三條以下ノ手續ニ從ヒ其取扱ヲ爲ス（治罪法第二百卅條及ヒ第二百四十六條已下）

第百十條　豫審終結ノ言渡ハ其都度左ノ報告書ヲ以テシ又示決事件ハ十五日毎ニ又左ノ報告書ヲ裁判所長ニ出ス（治罪法第二百卅三條）

書記　氏名印

豫審終結ヲ裁判所長ニ報告スル書式（治罪法第二百三十三條第一項）

豫審終結ノ報告書

番号	被告人ノ住所職業氏名	事件又ハ発訴ノ理由	終結ノ言渡
第一	住所身分職業氏名	人ノ所有物ヲ盗ス	何裁判所ニ移ス
第三	住所身分職業氏名	犯罪ノ證憑充分ナラス	免訴

右本日及終結候間此段致報告候也

明治何年何月何日某裁判所

豫審判事　氏　名 印

何裁判所長

判事氏名殿

豫審未決事件報告書

番号	被告人ノ住所職業氏名	被告事件	受理ノ年月日
第一	何住所身分職業氏名	人ノ所有物ヲ盗ス	何々裁判所ニ移ス
第三	何住所身分職業氏名	犯罪ノ證憑充分ナラス	免訴

右及報告候也

明治何年月日何裁判所

豫審判事　氏　名 印

何裁判所長

判事氏名殿

第十一章　豫審上訴

第百十一條　左ノ場合ニ於テハ檢事又ハ被告人ヨリ豫審終結ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヿヲ得

一　管轄違ヒノ申立ヲ棄却シタル片

二　法律ニ背キ令狀ヲ發シ又ハ之ヲ發セサル片

三　法律ニ背キ保釋賣付ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サヽル片

四　越權ノ處分アル片

民事原告人ハ私訴ニ付キ第四ノ場合ニ於テ故障ヲ爲スヿヲ得（治罪法第二百三十四條）

第百十二條　前條ニ定メタル故障ヲ爲ントスル片ハ其故障ノ趣意書ハ對手人ノ數ニ應シタル謄本ヲ添ヘ之ヲ書記局ニ差出サシム若シ在監人ナル片ハ監獄長ヲ經テ差出サシム（治罪法第二百卅五條第一項第三百十一條）

第百十三條　書記ハ其謄本ヲ各對手人ニ送達シ三日ヲ過シテハ其答辨書ヲ差出スト否トヲ問ハス其書類ヲ會議局ニ差出（治罪法第二百三十五條第二項）

故障ニ付テハ豫審處分ノ執行ヲ停止セス但保釋賣付ヲ爲シタルニ付キ檢事ヨリ故障アリタル片ハ其執行ヲ停止ス（治罪法第二百三十五條第三項）

第百十四條　會議局ニ於テハ檢事ニ意見書ヲ差出サシメ判事三名以上ニテ一切ノ書類ニ依リ左ノ如ク其故障ヲ判決シ被告人ニ送達ス可キ謄本ニハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告スルヲ得ヘキヿ及ヒ其期限ノ三日ナルヿヲ記載ス（治罪法第二百卅六條第二百五十八條）

故障ノ判決書式

言渡書

某裁判所會議局ハ檢事氏名カ住所身分職業氏名ノ被告タル何々事件ニ付何裁判所豫審判事ノ審理中ニ於テ管轄違ノ趣申立タル處其申立ヲ棄却セラレタレ𪜈右ハ云々ニ付治罪法第何條ニ背キタル不當ノ處分ナル旨故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書被告人氏名ノ答辨書及ヒ檢事ノ意見書其他訴訟書類ヲ熟閲スル處何々ノ書類ニ依レハ云々ナルヲ以テ豫審判事カ管轄違ノ申立ヲ棄却シタルハ治罪法第四十條犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトスル明文ニ適當シタルモノトス依テ故障ノ申立ハ之ヲ棄却スルモノナリ

明治何年月日

何裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ本文ノ末ニ左ノ但書ヲ加フ

但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

判事　氏名印
判事　氏名印
書記　氏名印

法律ニ背キ令狀ヲ發シタルニ付キ故障ヲ爲シタル件會議局ニ於テ判決スル書式ハ左ノ如シ

判決言渡書

某裁判所會議局ハ被告人住所身分職業氏名カ檢事何某ヨリ起訴

セラレタル何々事件ニ付キ豫審判事氏名ヨリ何年月日時ニ發シタル拘引狀ハ治罪法第百廿條同第百二十一條ニ的當セス不法ノ處分ナル旨故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書檢事氏名ノ答辯書其他訟書類及ヒ檢事ノ意見書ヲ閲スルニ云々ノ書面ニ依レハ被告人氏名ハ召喚狀ヲ受ケタル日時ニ出廷セサルニ在ラサレハ治罪法第百二十條ニ依リ勾引狀ヲ發スヘキニ非ス又被告人定リタル住所アリ及ヒ罪証ヲ煙滅シ又ハ逃亡スル等ノ恐レアラサル丶何々ニ依リ明瞭ナレハ治罪法第百二十一條ヲ適用シ勾引狀ヲ發ス可ニ非ストス依テ豫審判事何某ノ發シタル勾引狀ハ之ヲ取消ス者ナリ

明治何年　月　日

何裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

判事　氏名印

判事　氏名印

書記　氏名印

法律ニ背キ令狀ヲ發セサルヒノ判決ハ之レニ準ス法律ニ背キ保釋責付ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サヽルヒ亦同シ

被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ本文ノ末ニ左ノ但書ヲ加フ

但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

越權ノ處分アルニ付キ故障ヲ爲シタルヒ會議局ニ於テ判決スル書

式

判決言渡書

何裁判所會議局ハ民事原告人住所身分職業氏名ハ被告人氏名ノ何々事件ニ付キ損害ヲ受ケタルヿヲ證スル爲メ何住所身分職業氏名其他何某々々ヲ證人トシテ指名シタル處豫審判事氏名ハ治罪法第百七十條ニ背キ其一名ヲモ呼出サズ右ハ其職權ヲ超越シタル者ナルヲ以テ其處分ニ服セサル旨故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書被告人氏名ノ當辨書其他訴訟書類及ヒ檢事ノ意見書ヲ閲スルニ云々ノ理由ナルヲ以テ豫審判事ニ於テハ何某ノ指名シタル証人五名ヲ限リ呼出ス可キ者也

明治何年　月　日

何裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

判事　氏名印

判事　氏名印

書記　氏名印

被告人ニ送達ス可キ言渡書ニハ本文言渡書ノ末ニ左ノ但書ヲ加フヘシ

但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

第百十五條　左ノ場合ニ於テハ檢事被告人又ハ民事原告人ヨリ豫審終結ニ至ルマテ豫審判事ヲ忌避スルヿヲ得（治罪法第二百三十七條）

一　豫審判事又ハ其配偶者ト被告人被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者

ト親屬ナル件

二　豫審判事被告人又ハ民事原告人ノ後見人ナル件

三　豫審判事又ハ其配偶者ニ於テ民事原告人被告人又ハ是等ノ者ノ親屬ヨリ賄賂ニ非スト雖モ贈物ヲ收受シ若クハ聽許シタル件

第百十六條　前條ニ定メタル忌避ノ申立ヲ爲シ其趣意書二通ヲ書記局ニ差出シタル件ハ之ヲ豫審判事ニ送致ス

豫審判事ハ之ヲ受取リタルヨリ廿四時内ニ其申立ヲ認可シ若クハ棄却スル旨ヲ左ノ如ク趣意書ノ紙尾ニ記載シ一通ヲ書記局ニ蹟置シ他ノ一通ヲ本人ニ送達セシム（法罪法第二百三十八條）

趣意書ノ紙尾ニ記載スル書式

忌避申立ノ趣認可（或ハ棄却候事

明治何年月日

某裁判所　豫審判事　氏名印

被告人ヨリ爲シタル忌避ノ申立ヲ棄却シタル件ハ被告人ヘ送達ス可キ分ニ忌避申立ノ趣棄却候事トアル次ニ左ノ但書ヲ加フ

但此言渡ニ對シテハ其送達ヲ受ケタルヨリ一日内ニ故障ヲ爲スヿヲ得

第百十七條　忌避ノ申立人其申立ヲ棄却セラレタルニ付故障ノ趣意書ヲ差出シタル件ハ會議局ニ於テ豫審判事ヨリ之レニ對スル辨明書ヲ差出サシメ左ノ判決ヲ與フ（治罪法第二百三十九條）

忌避ノ故障ニ付會議局ニ於テ判決スル書式

判決言渡書

某裁判所會議局ハ檢事氏名カ被告人住所身分職業氏名ノ何々一件豫審中ニ於テ其豫審判事何某ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲シタル處該判事ヨリ之レヲ棄却セラタレトモ右忌避ヲ爲ス所以ハ云々ニ付其棄却ハ不當ナル旨故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書及ヒ豫審判事氏名ノ辨明書ニ依リ之レヲ觀ルニ豫審判事氏名ノ妻某ハ被告人氏名ノ姉ノ子ノ配偶者某ト平素入魂ノ交際アルヲ以テ明治何年何月日ニ在テ同人ヨリ何品ヲ貰受ケタルヿ何々ニ依リ明白ナレハ治罪法第二百三十七條云々其第三項ニ云トアルニ照ラシ檢事ニ於テ豫審判事氏名ヲ忌避スルヲ得ヘキモノトス依テ檢事氏名カ爲シタル忌避ノ申立ヲ認可シ豫審判事氏名ノ棄却ヲ取消スモノ也

明治何年何月日某裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名　印
判事　氏名　印
判事　氏名　印
書記　氏名　印

本文ニ反對スル卽チ治罪法第二百四十一條ノ場合ノ如ク故障ノ申立ヲ棄却スルトキハ其理由ヲ言渡書ニ記載シ而シテ結文ヲ（豫審判事氏名カ爲シタル棄却ノ指令ヲ認可シ檢事氏名ノ故障ヲ棄却スルモノ也）ニ作ル

被告人ノ爲シタル忌避ノ申立ヲ棄却シタルトキ被告人ヨリ故障ヲ爲シ其故障ヲモ亦棄却シタルトキ被告人ニ送達スル言渡書ニハ左ノ但

書ヲ加フ

但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

第百十八條　豫審中忌避ノ申立アリタルトキ又ハ其申立ヲ棄却シタルニ付故障アリタルトキニ於テハ豫審手續ヲ停止スルト否トハ其事件ノ急不急ヲ斟酌シテ處分スルヿアリ但豫審終結ノ言渡ヲ爲サス（治罪法第二百四十條）

第百十九條　第百十四條第百十七條ノ判決ヲ爲シタルニ付豫審終結前ニ於テ上告ノ申立アリト雖モ其判決ハ速カニ之ヲ執行ス（治罪法第二百卅六條第二百四十一條）

第百二十條　豫審判事自ラ治罪法第二百卅七條ニ定メタル原由アルヲ認メ又ハ回避ス可キ者ト思料シタルトキハ書面ニテ其旨ヲ會議局ニ申立會議局ニ於テハ左ノ判決ヲ爲ス但治罪法第二百四十五條ニ定メタル檢事ノ回避モ亦同シ（治罪法第二百四十二條）

第百二十條　會議局ニ於テ忌避又ハ回避ノ申立ヲ認可シタルトキハ裁判所長ヨリ更ニ他ノ判事ヲシテ豫審ヲ爲サシム其判事ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ前豫審判事ノ爲シタル處分ヽ雖モ更ニ取調ヲ爲スヿアリ（治罪法第二百四十三條）

第百廿一條　書記回避ヲ爲スニハ第百十九條ノ手續ニ從フ訴訟關係人ヨリ書記ヲ忌避スルノ申立書ハ書記局ヲ經テ會議局ニ差出サシム（治罪法第二百四十四條）

第百廿二條　會議局ニ於テ前條ノ申立ヲ認可シタルトキハ裁判所長他ノ書記ヲシテ其職務ヲ行ハシムルヿ治罪法第二百四十三條ノ

手續ニ準ス

豫審ニ付檢事其他訴訟關係人ヨリ會議局ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲シタル件ハ第二百〇三條以下ノ手續ニ準シ其取扱ヲ爲ス（治罪法第二百卅六條同第二百卅一條第二百五十七條）

第百廿三條　檢事民事原告人及ヒ被告人治罪法第二百四十六條ノ區分ニ從ヒ豫審終結ノ言渡ニ對シ一日內ニ其故障ノ申立書ヲ書記局ニ差出シタル件ハ書記速ニ其旨ヲ對手人ニ通知スルヿ左ノ如シ（治罪法第二百四十七條同第二百四十八條第一項）

書記ヨリ對手人ヘ通知スル書式

通知書

當裁判所ニ於テ住所身分職業氏名カ被告タル云々事件ニ付豫審終結ノ言渡ヲ爲シタル處之ニ對シ故障ヲ爲スヘキ爲メ檢事氏名（又ハ民事原告人其他訴訟關係人）ヨリ本日午前何時其申立書ヲ差出シタルニ付キ此旨被告人何某（其他）ニ通知スルモノ也

明治何年　月　日　時

何裁判所　書記　氏名　印

檢事ニ通知スル件ハ本文此旨ノ下ヲ（及通知候也）ニ作リ書記ノ次ニ（何裁判所檢事氏名殿）ト記ス

（治罪法第三百卅九條第三百六十八條ノ控訴アリタルニ付通知スル書式ハ本文ニ準シ而シテ豫審終結ノ言渡ヲ裁判言渡ニ作リ故障ヲ控訴ニ作ルナリ）

第百廿四條　故障申立人ヨリ更ニ三日内ニ其趣意書ヲ差出シタルトキハ第五十三條ノ手續ヲ以テ速ニ之ヲ對手人ニ送達ス附帶ノ故障アリタルトキモ亦同シ（治罪法第二百四十八條第二項第三項同第二百四十九條）

第百廿五條　前條ノ故障ニ付其書類取扱ノ手續ハ第百十一條ニ從ヒ其言渡書ノ式ハ左ノ如ス若シ被告人ヲ保釋責付シ又ハ拘留ス可キ者ト認定シタルトキハ其言渡ヲ爲スヿアリ（治罪法第二百四十八條第三項第二百五十一條第二百五十二條）

判決書ノ式

判決言渡書

某裁判所會議局ハ檢事氏名カ何住所職業氏名ノ被告タル何々事件ニ付豫審判事氏名ニ於テ言渡セシ豫審終結ノ言渡ニ對シ爲シタル故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書及ヒ被告人氏名ノ答辨書該檢事ノ意見書其他訴訟書類ニ依リ審案スル所右言渡ニ於テハ云々ノ証憑ニ依リ被告人ハ何所ニ於テ何々ノ事ヲ爲シタルモノト認メ刑法第何十條ニ何々トアルニ依リ處斷スヘキモノトシテ某裁判所ニ移スト云フニ在リ然ルニ被告人ノ所爲ハ豫審判事ノ明示スル証憑ニ依リ其言渡ノ如ク相違ナシト雖ヒ該所爲ハ刑法第何條ニ何々トアルヲ適用ス可キ重罪ニシテ豫審判事カ指示スル法章ハ全ク不適當ナルヲ以テ治罪法第二百五十二條ニ依リ右ノ言渡ヲ取消シ更ニ此事件ヲ某重罪裁判所ニ移シ且被告人氏名ノ保釋（又ハ責付）言渡ヲ取消シ其控訴裁判所檢事長ノ指揮アルマテ被告人ヲ當裁判所ノ監倉ニ留置スルモノ也

明治何年月日

何裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印
判事　氏名印
判事　氏名印
書記　氏名印

被告人ニ送達スル言渡書ニハ本文ニ但書ヲ加フルヿ左ノ如シ

但此言渡ニ對シテハ上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

第百廿六條　豫審終結ノ言渡ハ被告人ヲ勾留シ又ハ保釋責付ヲ取消スノ言渡ヲ除クノ外故障ノ期限内又故障アリタルトキハ其判決マテ執行ヲ停止ス（治罪法第二百五十條）

第百廿七條　會議局ニ於テ必要ナルトキハ判事一名ヲシテ更ニ豫審ヲ爲サシメ又ハ或ル條件ニ付更ニ取調ヲ爲サシム其判事ハ通常豫審ノ手續ニ從ヒ調濟ノ上左ノ報告書ヲ差出ス（治罪法第二百五十三條）

豫審報告書ノ式

報告書

住所身分職業
被告人　氏名

右之者何々（犯罪ノ種類ヲ記ス）一件御求ニ依リ豫審ヲ遂クル處別紙調書ノ通ニ付此段及報告候也

明治何年　月日

何裁判所
判事　氏名印

某裁判所會議局　　書記　　氏名印

判事御中

治罪法第三百五十七條報告書式ハ之ニ準スト雖モ本條ハ指示シタル條件ナルノミニ注意シ且判事氏名ヲ豫審判事氏名ニ宛名ヲ某裁判所判事氏名ニ作ルナリ

第百廿八條　會議局ニ於テ故障ノ取調中管轄逆越權又ハ公訴受理ス可ラサルヿヲ發見シタルトキハ職權ヲ以テ豫審判事ノ言渡ヲ取消スヿアリ（治罪法第二百五十四條）

第百廿九條　故障ノ取調中共犯又ハ附帶ノ犯罪ヲ發見シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ判事ヲシテ豫審ヲ爲サシム其手續キ及ヒ報告ハ第百廿七條ニ同シ

會議局ニ於テハ前項ノ報告書及ヒ檢事ノ意見書其他訴訟書類ニ依リ故障ト共ニ左ノ如ク之ヲ判決ス（治罪法第二百五十五條）

故障ト共ニ判決スル書式

判決言渡書

何裁判所會議局ハ檢事氏名カ住所身分職業氏名ノ被告タル云々事件ニ付キ豫審判事氏名ニ於テ爲シタル豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書及ヒ答辯書其他訴訟書類ニ依リ之ヲ審案スルニ右言渡ニ於テハ何々ノ証憑ニ依リ被告人氏名ハ明治何年月日某所ニ於テ云々ノ事ヲ爲シタルモノトシ刑法第何條ニ

何々トアルニ依リ處斷スヘキモノト認メ某裁判所ヘ移スト云フニ在リ然ルニ被告氏名カ云々ノ事ヲ爲シタルハ豫審判事カ其證據ヲ明示セシ如ク相違ナシト雖ニ其所爲タルヤ刑法第百何條ニ云々トアルヲ適用スヘキ重罪ニシテ且ツ氏名ノミ犯シタルモノニアラスシテ何某カ教唆ニ出タルヿ何々ノ書類ニ依リ發見シタルヲ以テ檢事ノ請求ニ依リ(又ハ職權ヲ以テ)豫審ヲ爲シ即チ教唆者氏名ヲモ取調タル其報告書其他訴訟書類ニ依テ更ニ審案スル處被告氏名カ何々ノ犯罪ト何某ノ教唆ニ因リタルヿ云々ノ證憑ニ依リ明白スルヲ以テ之ヲ刑法第何條ニ何々第何條ニ何々トアルヲ適用スヘキモノナリトス故ニ豫審判事氏名カ指示シタル法章ハ其適當ヲ得サルヲ以テ治罪法第二百五十二條ニ照シ豫審判事氏名ヲ爲シタル終結ノ言渡ヲ取消シ更ニ此事件ヲ某重罪裁判所ニ移シ且某控訴裁判所檢事長ノ指揮アルマテ被告氏名教唆者氏名ヲ當裁判所ノ監倉ニ留置スルモノ也

明治何年　月　日

何裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名　印

判事　氏名　印

判事　氏名　印

書記　氏名　印

被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ左ノ但書ヲ加フス

但此言渡ニ對シテハ上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリト

第百三十條　訴訟關係人又ハ其代人非常ノ變災厄難ニ因リ上訴期限ヲ經過シタル旨ヲ證明スル爲メ其證據ヲ申立書ニ添ヘ書記局ニ差出シタルトキハ書記之ヲ對手人ニ送達ス（治罪法第二百五十九條第三百十二條）

前項ノ送達ヨリ三日ヲ過レハ對手人ヨリ答辯書ヲ差出スト否トヲ問ハス其事件故障ニ係ルトキハ書記ヨリ其書類ヲ其裁判所會議局ニ差出シ上告ニ係ルトキハ大審院ニ送致スル爲メ之ヲ檢事ニ差出ス（治罪法第二百五十七條第三百十三條第四百二十條）

會議局ニ於テハ檢事ノ意見ヲ書面ニテ聽キ左ノ如ク先ツ其上訴ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス此等ノ手續ハ治罪法第三百十三條第二項第三項第四項ニ從フ

豫審上訴ニ付受理ス可キヤ否ヲ判決スル書式

判決書

某裁判所會議局ハ住所身分職業氏名カ其被告タル何々事件ニ付明治何年何月日豫審判事何某ニ於テ何裁判所ニ移ス可キ旨ヲ言渡サレタレトモ其言渡ハ何々ニ付不服ナル旨ノ故障ヲ申立依テ其書類及ヒ氏名カ其故障ノ期限ヲ經過シタルハ云々ノ事由ナル旨ヲ証明スル爲メ差出シタル何々ノ書面且檢事氏名ノ答辯書ヲ熟閲スルニ被告人氏名ハ治罪法第二百四十七條ニ揭ケタル故障ノ期限ヲ經過シタルモ云々ノ天災（又ハ厄難）ニ原因シ止ムヲ得サルヿ何々ノ書面ニ依リ明白ナルヲ以テ治罪法第三百十二條ニ訴訟關係人又ハ其代人非常ノ變災厄難ニ依リ上訴期限ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ証明シタルトキハ期限ヲ經過シタルニ依リ失ヒタル權理ヲ回復スルヿヲ得ルトアルニ照シ右故障ノ申立ハ之ヲ

受理スル者也

明治何年　月　日

何裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

判事　氏名印

判事　氏名印

書記　氏名印

受理ス可ラサル判決書モ亦之ニ準ス但シ本文中其受理ス可カラサルノ理由ヲ付ス

公判上訴ノ判決書モ亦同シ

第百卅一條　豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其言渡確定シタル後新ナル證憑アルヲ以テ檢事ヨリ之ヲ會議局ニ差出シタル時ハ會議局ニ於テ左ノ如ク其起訴ヲ許スヘキヤ否ヤ判決ス（治罪法第二百六十一條）

檢事ノ起訴ヲ許スヘキヤ否ヤ判決スル書式

判決書

某裁判所會議局ハ檢事氏名カ住所身分職業氏名ノ被告タル何々事件ニ付明治何年何月何日豫審判事何某ニ於テ犯罪ノ證憑充分ナラサルヲ以テ免訴スル旨ヲ言渡シタレトモ今日ニ至リ新ナル證憑ヲ發見シタルヲ以テ之ヲ當會議局ニ差出シ起訴ノ判決ヲ求ムル旨ノ申立ヲ受ク依テ裏キノ豫審書類ヲモ熟閲シ更ニ審判スル處該證憑ハ何々ニ付新ナル證憑ト爲スニ充分ナルヲ以テ檢事ノ

起訴ヲ差許ス者也

明治何年何月日

何裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

判事　氏名印

判事　氏名印

書記　氏名印

又檢事ノ起訴ヲ許サヽルトキハ本文中(該証憑ハ何々ニ付)ノ下文ヲ(新ナル証憑ト爲スニ足ラサルヲ以テ檢事ノ起訴ヲ差許サヽル者也)ニ作ルナリ

第十二章　輕罪公判

第百三十二條　訴訟事件ハ書記局ノ簿冊ニ登記シタル順序ニ從ヒ之ヲ公判ニ付ス

裁判所長ハ未決勾留ノ日數ヲ減縮スル爲メ職權ヲ以テ其順序ヲ變更スルヿヲ得

又重要ナル事由ノ爲メ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキモ亦順序ヲ變更スルヿアリ

書記ハ左ノ公判件數錄ヲ備置キ順序ヲ追テ此簿冊ニ登記ス(治罪法第二百六十二條)

公判件數錄ノ式

表紙

明治何年何月日

公判件數錄

何々裁判所

此ノ公判件數錄ニハ受付ノ年月日掛官ノ氏名及ヒ被告人ノ住所氏名等左ノ記載例ニ準ス

記載例

受付	明治何年何月日
番号	第何号
掛官	判事 氏名 書記 氏名
件名	竊盜(又ハ何々)
在檻	明治何年月日
責付	仝
保釋	仝
言渡	仝
證憑物件	何品 何品
被告人住所身分職業	何某 何年四ヶ月
	何十點 何個

第百廿三條　重罪輕罪違警罪ノ訊問辯論及ヒ裁判言渡ハ之ヲ公判ス否ラサルトキハ其言渡ノ効ナシ

訊問辯論及ヒ裁判言渡ヲ傍聽セシトスルモノハ自由ニ訟廷ニ立入リ傍聽席ニ就カシム若シ被告事件公安ヲ害シ又ハ猥褻ニ渉リ風俗ヲ害スルノ恐アルトキハ裁判所ニ於テ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訊問及ヒ辯論ノ傍聽ヲ禁スルコトハ左ノ言渡ヲ爲シ訟廷ノ入口ニハ禁傍聽ノ牌ヲ掲ケシム（治罪法第二百六十三條同第二百六十四條）

傍聽ヲ禁スル言渡書ノ式

言渡書

住所身分職業氏名カ被告タル何々事件ハ公安（又ハ風俗）ヲ害スルノ恐アルニ付檢事ノ意見ヲ聽キ（又ハ職權ヲ以テ）治罪法第二百六

四條ニ依リ訊問及ヒ辯論ノ傍聽ヲ禁スルモノ也

明治何年何月　日

某裁判所

判事　氏名印

書記　氏名印

傍聽ヲ禁スル牌ノ式

禁傍聽

第百三十四條　裁判所長ハ公判件數錄ニ登記シタル訴訟ノ順序ニ依リ公判ニ付ス可キ爲メ之ヲ各判事ニ配當シ書記ヲシテ左ノ如ク其件數ヲ公判班數表ニ照ラシテ順次公判ニ付ス但判事差支アル件ハ判事補ヲシテ其職務ヲ行ハシム（治罪法第五十七條第一項同第二百六十二條第一項）

班數表之式

明治何年何月

公判班數表

某裁判所

何月何日
○判事　氏
○○○判事　氏
○○判事　氏

此ノ班數ハ配付件數ノ平等ヲ照スモノトス以下之ニ倣フ

何	月	何	日
	○		
○	○		
○	○	○	
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
判事	判事	判事補	
氏	氏	氏	

何	月	何	日
○			
○		○	
○	○	○	
○	○	○	○
○	○	○	○
書記	書記	書記	書記
氏	氏	氏	氏

第百三十五條　判事ハ被告事件急速ヲ要シ且其事件豫審ヲ經サル輕罪ナレハ公判ニ取掛ル前治罪法第三百廿四條ノ規則ニ依リ檢證處分ヲ爲スヿアリ但其手續ハ第五章ニ記シタル豫審判事ノ檢證處分ニ同シ（治罪法第三百五十一條）

本條ノ場合ニ於テ判事補カ判事ノ職務ヲ行フトキ亦同シ以下之ニ倣フ

第百三十六條　公訴ヲ受理シタルトキハ書記呼出錄ニ喚徵人ノ氏名等ヲ記載シ之ニ認印シ尙ホ判事ノ認印ヲ受ケ而テ治罪法第三百二十二條第三百二十三條第三百四十九條第三百五十條ノ規則ニ依リ第三十九條ノ呼出狀ヲ以テ之ヲ呼出ス（治罪法第三百四十八條）

第百三十七條　判事ハ公廷ニ於テ諸般ノ取締ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲ス若シ稱讚誹謗其他辯論ヲ妨礙スル者アルトキハ之ヲ制止シ又

ハ退延セシム（治罪法第二百七十二條）

第百三十八條　被告人辯護人ヲ用フルトキハ其辯護人ノ住所身分氏名及ヒ該裁判所々屬ノ代言人ナルヿヲ記載シタル左ノ如キ屆書ヲ書記局ニ差出サシム若シ代言人ニ非サル者ヲ用フルトキハ其願書二通ヲ出サシメ判事ハ書ヲシテ許否ノ旨ヲ書シ其一通ヲ被告人ニ下付セシム（治罪法第二百六十六條）

若シ被告人監獄ニ在ルトキハ監獄長ヲ經テ該書面ヲ差出サシム（治罪法第三百十一條）

辯護人ヲ用ルノ屆書式

屆書

自分儀此度何々ノ事件ニ付公訴ヲ受ケタルニ依リ當御裁判所々屬代言人住所身分職業氏名ヲ以テ辯護人ト相定メ候間此段御屆申上候也

明治何年何月何日

住所身分職業

何某（印）

某裁判所

判事氏名殿

願書ノ式

願書

自分儀此度何々ノ事件ニ付公訴ヲ受ケ候ニ付テハ何府縣何國何區郡何町村番地職業氏名ヲ以テ辯護人ト相定メ度候間此段御允許被成下候樣奉願候也

明治何年何月日

住所身分職業

氏　名㊞

某裁判所

判事氏名殿

右願書ハ二通ヲ出サシメ左ノ朱書ヲ爲シ一通ヘハ掛判事ノ檢印ヲ捺シ其一件書類ヘ綴リ置キ一通ハ右判事ノ官印ヲ捺シ願人ヘ下付ス

朱書ノ式

願之趣允許スル者也

明治何年何月日　判事何　某之印

又ハ

願之趣難聽屆候條更ニ他人ヲ改選シ可願出者也

明治何年何月日　判事何　某之印

第百三十九條　被告人ハ公廷ニ於テ身体ノ拘束ヲ受ルヲナシト雖ヒ暴行逃亡ヲ豫防スル爲メ守卒一名又ハ二名ヲ付置クヿアリ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人疾病ナクシテ出廷ヲ肯セサルトキハ公力ヲ以テ之ヲ引致スルヿアリ（治罪法第二百六十五條）

第百四十條　訴訟關係人呼出ニ應シ出廷シタルトキハ在監ノ被告人ヲ除クノ外總テ着到屆ヲ書記局ニ差出サシム書記ハ直ニ之ヲ判事ニ通報ス

証人ハ着到屆ノ外ニ其呼出狀ヲ差出サシメ若シ之ヲ遺失シタルトキ

ハ其人違ナキヿヲ證明セシム（治罪法第二百八十七條第二百七十八條）

第百四十一條　判事ハ檢事及ヒ書記ト共ニ公廷ニ就キ左ノ順序ニ從ヒ被告人其他ノ訴訟關係人ノ訊問及ヒ辯論ヲ行フ

一　判事ハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所及ヒ出生ノ地ヲ問フ若シ被告人數名ナレハ判事其意見ヲ述ヘ且檢事其他訴訟關係人ノ意見ヲ聽キ訊問ノ順序ヲ定メ而テ後之ヲ訊問ス但事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ職權ヲ以テ其順序ヲ變更スルヿアリ（治罪法第二百九十九條第三百五十二條）

二　檢事ハ被告事件ヲ陳述ス（治罪法第三百五十二條）

三　民事原告人ハ被告事件ヲ證明スヘキヿヲ陳ス

四　書記ヲシテ調書又ハ申立書ヲ朗讀セシム

五　檢事ノ請求ニ因リ呼出シタル證人ヲ一人ツヽ公廷ニ呼込マシメ

其氏名年齢職業住所及ヒ治罪法第百八十一條ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ問フ（治罪法第百七十九條第二百八十七條第二百八十九條第三百五十二條）

呼出シタル證人二名以上ナルトキハ檢事（其他訴訟關係人）ヨリ差出シタル氏名目錄ノ順序ニ從ヒ之ヲ訊問ス但證人ヲ呼出シタル者ノ意見ヲ聽キ其順序ヲ變更スルヿアリ（治罪法第二百九十條）

六　前項ノ證人ニ愛憎畏懼ノ心ナク正實ニ陳述ヲ爲スヘキ旨宣誓ヲ爲サシメ其宣誓書ヲ讀聞カセ署名捺印セシメタル上ニテ之カ陳述ヲ聽キ其陳述ハ書記ヲシテ之ヲ公判始末書ニ錄取セシメ判事書記之ニ署名捺印ス（治罪法第二百八十七條）

七　民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人ヲ訊問ス其手續キハ本條第五第六ノ二項ニ從フ（治罪法第二百八十八條第二項）

八　被告人及ヒ民事擔當人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人ヲ訊問ス（同條